

## 成人看護学の構成

### 目的

健康や不健康状態を一つの連続体としてとらえ、人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解し、健康の段階に合わせた看護を展開することができる能力を養う

### 目標

1. 大人を対象に、最適な健康を促進、維持、増進するための看護を理解する
2. 成人の生活や生き方について捉え、成人の健康状態や健康問題を理解することができる
3. 生活や健康に関する動向を捉え、成人の健康生活を多角的にとらえる視点を持つことができる
4. 健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶことができる

講義科目	単位	時間	時期	目標
成人看護学概論	1	30	Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解する</li> <li>2. 成人保健に関する施策やヘルスケアシステムについて学ぶ</li> <li>3. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する</li> </ol>
成人看護学方法論 Ⅰ	2	60	Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する</li> <li>2. 急性期にある人の回復支援について理解する</li> <li>3. 急性期にある人の病態や検査・治療、および周手術期にある人の心身に及ぼす影響を学び、看護師の役割を理解する</li> </ol>
成人看護学方法論 Ⅱ－①	1	30	Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 勤労者である成人の慢性期における疾病の特徴と対象を理解する</li> <li>2. 疾病と共に生きる過程の支援を学び看護の役割を理解する</li> </ol>
成人看護学方法論 Ⅱ－②	1	30	Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病を持った勤労者に対して自己管理を支援するための教育方法を習得する</li> </ol>
成人看護学方法論 Ⅲ	1	30	Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん治療の場と看護の実際を理解する</li> <li>2. 緩和ケアにおける看護介入の実際を理解する</li> <li>3. 緩和ケアを必要とする患者の家族の悲嘆やおかれた状況、支援の方法を理解する</li> <li>4. 自己の死生観を洞察することができる</li> </ol>

実習	単位	時間	時期	目標
成人看護学実習 I	2	90	IV～ VI	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期にある患者の回復過程における看護展開ができる</li> <li>2. 急性期にある患者の病態や治療・検査、および周手術期にある患者の心身に及ぼす影響をアセスメントし、看護の介入方法を学ぶことができる。</li> <li>3. 手術室およびICUでの看護の実際について学ぶ</li> </ol>
成人看護学実習 II	2	90	IV～ VI	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性で長期的な疾患を有し、生涯自己管理行動を続けながら生活する人への看護を学ぶことができる</li> <li>2. 慢性で長期的な疾患を有する人への看護が展開できる</li> <li>3. 患者教育の実際が理解できる</li> </ol>
成人看護学実習 III	2	90	IV～ VI	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象の苦痛の緩和を支援し、QOLの維持・向上に向けての看護の展開ができる</li> <li>2. 終末期にある対象の家族の悲嘆やおかれた状況を理解し、支援の実際を理解できる</li> <li>3. 死後のケアの方法を学び、対象および家族への対応と配慮が理解できる</li> <li>4. 自己の死生観をあきらかにする</li> </ol>

# 成人看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	成人看護領域実務病棟勤務経験有		
科目目標	1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解する 2. 成人保健に関する施策やヘルスケアシステムについて学ぶ 3. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心を持つこと 言葉の定義について事前学習	テキスト	成人看護学総論（医学書院）国民衛生の動向		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	成人と生活 1. 大人とは何かを 考えることができる 2. 成人の特徴を 理解できる	1. 大人になること、大人であること 1) 生涯発達の特徴 2) 各発達段階の特徴 (青年期・壮年期・中年期) 2. 働いて生活を営むこと 1) 労働の実態と社会状況 2) 家族の形態 3) 人生のできごとへの対処 4) 人生の意味の探求	1. 成人の生活について自分の 考えを述べるができる 2. 成人期の発達段階の特徴を とらえ、現在の社会状況と成 人の健康・生活に与える影響 について述べるができる	講義
3 4	4	生活と健康 1. 成人の生活と 健康について 理解する 2. 成人保健対策 の概要を理解 する	1. 成人を取り巻く環境からみた健康 1) 成人を取り巻く環境 2) 成人のライフスタイルの特徴 3) 勤労者とは (1) 仕事をもち働くこと 4) 成人の健康の状況 (1) 生と死の動向 (2) 健康格差 (3) 職業性疾病・業務上疾病 (4) 受療状況 (5) 生活習慣病 (6)メンタルヘルス 2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 1) 保健・医療・福祉にかかわる施策 2) 保健・医療・福祉システムの連携	1. 成人期における人々にとっ ての健康とは何かを述べる ことができる 2. 生活の現状を知りその特徴 を述べるができる 3. 保健・医療・福祉システム について述べるができる	講義
5 6 7	6	成人への看護ア プローチの基本 1. 成人の看護の 基本を理解す る 2. 成人への看護 アプローチの 方法がわかる	1. 生活の中で健康行動を生みはぐくむ援助 1) 大人の健康行動のとらえ方 2) 行動変容を促進する看護アプローチ 2. 健康問題をもつ大人と看護師の関係 1) 患者―看護師関係の構築・発展のプロセス 3. 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4. チームアプローチ 5. 看護におけるマネジメント 6. 看護実践における倫理的判断 7. 意思決定支援	1. 成人期の特徴をふまえた 看護アプローチの方法を理 解することができる 2. 看護における倫理的課題に ついて考えることができる	講義
8 9 10 11 12 13 14	14	成人の健康レベ ルに対応した看護 1. 成人の健康レ ベルに対応し た成人看護の 役割と機能に ついて理解す る	1. 成人の健康レベルに対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 3) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4) 慢性病との共存を支える看護 5) 障害がある人の生活とリハビリテーション 6) 人生の最期のときを支える看護 7) 療養の場を移行する人々への看護	1. 成人の健康レベルに対応し た成人看護の役割と機能 について考えることがで きる	講義
15	2	単位認定終講試験			

# 成人看護学方法論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	60時間
教員名	大阪労災病院院内講師 専任教員 専任教員 専任教員	実務経験		大阪労災病院 専門・認定看護師 消化器外科病棟勤務経験有 循環器病棟勤務経験有 手術室勤務経験有	
科目目標	1. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する 2. 急性期にある人の回復支援について理解する 3. 急性期にある人の病態や検査・治療、および周手術期にある人の心身に及ぼす影響を学び、看護師の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 200点 看護展開 100点	評価基準	筆記試験120点以上、看護展開60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事例展開は大腸がん罹患の勤労者を対象とし、全体像、一次・二次アセスメント、NCP立案、シュミレーションを自己学習やグループワークを行う	テキスト	成人看護学総論 臨床外科総論 成人看護学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） NANDA-I看護診断：定義と診断（医学書院） 周手術期看護論（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	外科医療の基礎 1. 手術侵襲と生体反応を理解する	1. 急性期にある人の特徴 2. 手術侵襲と生体の反応 1) 手術侵襲とは 2) 侵襲に対する生体の反応 3) サイトカインによる生体調節機構	1. 手術侵襲について述べるができる 2. 生体反応について述べるができる	講義
2	2	救急看護の基礎 1. 救急看護の特徴的な知識を習得する	1. 救急処置法の実際 1) 救急処置の範囲と対象 2) 救急処置法の原則と実際 2. 救急看護の実際 1) 救急医療の現状 2) 救急看護の役割 3) 救急患者発生時の看護	1. 救急処置法を理解することができる 2. 救急処置の基本を述べることができる 3. 救急看護の役割について述べるができる	講義
3	2	手術前患者の看護 1. 手術前における看護の役割と実際を理解する	1. 外来における手術前の患者の看護 1) 診断過程における援助 2) 心の整理と意思決定の支援 3) 全身状態を整えるための支援 2. 手術前の具体的援助 1) 心理面を整える 2) 全身状態を整える 3) 手術前日の準備 4) 手術当日の看護	1. 手術前における看護師の役割について理解できる 2. 手術前に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義
4	2	外科的治療を支える看護（麻酔） 1. 麻酔の基本を理解する 2. 麻酔が身体へ及ぼす影響を理解する 3. 麻酔に関する看護の役割を理解する	1. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類 3) 術前管理 4) 術中管理 5) 術後管理 6) 全身麻酔 7) 局所麻酔	1. 麻酔薬の薬理機序についての知識を習得し、麻酔を受ける患者の身体の管理について理解する	講義
5	2	手術中患者の看護 1. 手術中の看護の役割について理解する	1. 手術中の看護の要点 1) 手術療法と患者の状況 2) 手術室の安全管理	1. 手術中に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義

			<p>2. 手術室における看護の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入室前の看護</li> <li>2) 入室時の看護</li> <li>3) 麻酔導入時の看護</li> <li>4) 手術中の看護</li> <li>5) 手術終了時の看護</li> <li>6) 病棟への引き継ぎ</li> </ol> <p>3. 手術室の環境管理</p>		
6 7 8	6	<p>手術後患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術後に起こりやすい合併症について理解する</li> <li>2. 手術後の看護の役割について理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術後の回復を促進するための看護</li> <li>2. 術後合併症の発生機序</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術後出血</li> <li>2) 循環器合併症</li> <li>3) 呼吸器合併症</li> <li>4) 精神・神経系合併症</li> <li>5) 代謝・内分泌系合併症</li> <li>6) 腎・泌尿器系合併症</li> <li>7) 術後感染症</li> </ol> <p>3. 起こりやすい合併症の予防と発症時の対応</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術後に起こりやすい合併症について述べる事ができる</li> <li>2. 手術後に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べる事ができる</li> </ol>	講義
9 10	4	<p>集中治療を受ける患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアのための特徴的な看護の知識を理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集中治療・看護の概念と役割</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命危機状態にある患者の特徴</li> <li>2) 集中治療における看護の役割</li> </ol> <p>2. 集中治療室（ICU）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICUとは</li> <li>2) ICUの管理・運営と設備的条件</li> </ol> <p>3. 集中治療における看護の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 集中治療を受ける前の看護</li> <li>2) 集中治療中の看護</li> <li>3) 回復に向けた看護</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアに必要な観察・判断と看護の実践方法を述べる事ができる</li> </ol>	講義
11 12	4	<p>急性の循環機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環機能障害の特徴と看護の実際を理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 虚血性心疾患・弁膜症・心不全の患者の看護</li> <li>2. 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護</li> <li>3. 開心術を受ける人の看護</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環機能のアセスメント</li> <li>2) 治療と看護の実際</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる</li> </ol>	講義
13 14 15	6	<p>急性の脳・神経機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳・神経機能障害の特徴と看護の実際を理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害・脳腫瘍の人の看護</li> <li>2. 開頭術を受ける人の看護</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳神経機能のアセスメント</li> <li>2) 治療と看護の実際</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる</li> </ol>	講義
16 17 18 19 20 21	12	<p>急性の栄養摂取・消化機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養摂取・消化機能障害の特徴と看護の実際を理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食道癌・胃癌・大腸癌・直腸癌・肝臓癌・膵臓癌・胆嚢結石の人の看護</li> <li>2. 開腹手術・腹腔鏡下手術を受ける人の看護</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養摂取・消化機能のアセスメント</li> <li>2) 治療と看護の実際</li> <li>3. 内視鏡の検査と治療の看護の実際</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる</li> </ol>	講義
22 23	4	<p>急性の運動機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動機能障害の特徴と看護の実際を理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨折の人の看護</li> <li>2. 脊椎に疾患を持つ人の看護</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動機能のアセスメント</li> <li>2) 治療と看護の実際</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる</li> </ol>	講義
24	2	<p>急性の呼吸機能障害のある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸機能障害の特徴と看護の実際を理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肺癌の人の看護</li> <li>2. 肺切除術を受ける人の看護</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸機能のアセスメント</li> <li>2) 治療と看護の実際</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法が理解できる</li> </ol>	講義
25 26 27 28 29	10	<p>【事例展開】</p> <p>周手術期にある勤労者患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期の患者の看護展開ができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント</li> <li>2. 看護計画の立案</li> <li>3. 看護実践の評価</li> <li>4. 看護計画の追加・修正</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある勤労者の成人期患者の事例を用いて回復に向けての身体管理に重要な診療に伴う技術の基本を学び、看過程の展開方法が理解できる</li> </ol>	講義 グループ ワーク シミュレーション
30	2	単位認定終講試験			

# 成人看護学方法論Ⅱ－①

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 大阪労災病院院内講師	実務経験	慢性疾患棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師		
科目目標	1. 勤労者である成人の慢性期における疾病の特徴と対象を理解する 2. 疾病と共に生きる過程の支援を学び看護の役割を理解する				
評価方法	筆記試験100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解 疾病に応じた看護の役割について 自己学習	テキスト	成人看護学総論 成人看護学（医学書院） 健康の回復と看護⑤（メデイカ出版）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	慢性病との共存を支える看護 1. 慢性病患者について理解する 2. 慢性病患者のセルフマネジメントの必要性和、その支援方法について理解する	1. 慢性病患者の理解 1) 慢性病患者の経験する無力感 2) 病みの軌跡 3) 首尾一貫感覚 2. 慢性病との共存を支える看護の実践 1) エンパワメント 2) セルフケアとセルフマネジメント 3) セルフマネジメント支援の構成要素	1. 慢性病の概念と慢性的な病状や治療が患者の身体・精神・社会的側面に与える影響を述べる事ができる 2. 患者を支援するための方法について述べる事ができる 3. 慢性病を持ちながら生活するための看護について述べる事が出来る	講義
2 3	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	1. 糖尿病の人の看護 1) 糖尿病の診断・治療・合併症における看護の実際 2) 糖尿病患者の療養教育の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
4 5	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	2. 腎不全、透析導入の人の看護 1) 血液透析・腹膜透析・腎臓移植を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
6	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	3. 心不全の人の看護 1) 食事療法、薬物療法、安静療法を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
7	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	4. 肝炎の人の看護（慢性肝炎、肝硬変を含む） 1) 安静療法、食事療法、薬物療法を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事ができる	講義
8 9	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必	5. 血液・造血器疾患のある人の看護 1) 造血器腫瘍、免疫機構の障害をもつ患者の特徴と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べる事が	講義

		要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する		できる	
10	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	6. 肺結核の人の看護 1) 結核患者の療養教育・服薬支援・ソーシャルサポートと看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
11	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	7. 関節リウマチの人の看護 1) 薬物療法・リハビリテーションと療養教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
12	2	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	8. 脊髄損傷の人の看護 1) 脊髄損傷患者の療養教育・リハビリテーションと看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
13 14	4	慢性病患者の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	9. 免疫機能低下のある人の看護 1) 膠原病の人の看護の実際 2) エイズの人の看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

## 成人看護学方法論Ⅱ－②

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	疾病をもった勤労者に対して自己管理を支援するための教育方法を習得する				
評価方法	筆記試験 80点 事例展開 20点	評価基準	48点以上で合格 12点以上で合格 *筆記試験・事例あわせて60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	予習のワークシートあり 成人看護学概論で習った、慢性期の看護 患者教育について復習する	テキスト	成人看護学総論 基礎看護技術Ⅰ 成人看護学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ NANDA－Ⅰ看護診断：定義と診断（医学書院）（医学書院） 健康行動理論の基礎（医歯薬出版）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護における学習支援 1. 看護における教育指導の目的と意義が理解できる 2. 健康教育における看護師の役割について理解できる 3. 成人の健康生活を促すための看護技術について理解できる	1. 健康状態の変化に伴う学習支援 2. 看護の中に含まれる教育・指導 1) 個人を対象とした学習支援 2) 集団を対象とした学習支援 3. 学習者である患者への看護技術 1) エンパワメントエデュケーション 2) セルフマネジメント 3) コンプライアンス（アドヒアランス）を高めるための知識と技術	1. 健康状態の変化に応じた教育・指導の特徴について述べるができる 2. 看護における教育指導の意味を述べるができる 3. 健康教育のありかたについて述べるができる 4. エンパワメントアプローチの方法を述べるができる 5. セルフマネジメントアプローチの方法を述べるができる	講義
2	2	健康行動理論の基礎 1. 学習援助型健康教育の諸理論と実際について理解することができる	1. 健康行動理論① 1) 健康信念モデル（HBM）	1. 健康信念モデルについて説明することができる 2. 健康信念モデルと自己とを関連付けて、行動を考察することができる 3. 健康信念モデルを使って、人が健康に良いとされる行動をとるための条件、関わりの方向性を考えることができる	講義
3	2	健康行動理論の基礎 1. 学習援助型健康教育の諸理論と実際について理解することができる	1. 健康行動理論② 1) 変化ステージモデル	1. 健康信念モデルについて説明することができる 2. 変化のステージモデルと自己とを関連付けて、行動を考察することができる 3. 変化のステージモデルを使って、人の行動が変わり、それを維持するための5つのステージと、ステージに応じた関わりの方向性を考えることができる	講義
4	2	健康行動理論の基礎 1. 学習援助型健康教育の諸理論と実際について理解することができる	1. 健康行動理論③ 1) 自己効力感（セルフエフィカシー） 2) 計画的行動理論	1. 自己効力感について説明することができる 2. 自分の自己効力感と関連付けて、行動を考察することができる 3. 計画的行動理論について説明することができる 4. 計画的行動理論と自己と関連付けて、行動を考察することができる 5. 計画的行動理論を使って、人の「やる気」と行動との関係を考え、関わりの方向性を考えることができる	講義



5	2	健康行動理論の基礎 1. 学習援助型健康教育の諸理論と実際について理解することができる	1. 健康行動理論④ 1) ストレスとコーピング 2) ソーシャルサポート（社会的支援） 3) コントロール所在（ロカス・オブ・コントロール）	1. 健康信念モデルストレスとコーピングについて説明することができる 2. 自分のストレスコーピングについて考えることができる 3. ストレッサーの評価をして、健康状態にどのように影響するかを考えることができる 4. 医療と保健の分野でのソーシャルサポートについて述べるすることができる 5. コントロール所在と健康行動との関係について述べるすることができる 6. 自己のコントロール所在について考えることができる	講義
6 7	4	健康教育の実践① 1. 事例を通して、患者の健康行動をアセスメントすることができる 2. 健康教育計画を立案することができる	1. 事例に応じた健康行動理論の展開 *グループワーク	1. 糖尿病患者の事例を用いて、行動変容や強化を促すための具体的な関わりについて考えることができる 2. 糖尿病患者の事例を使い、健康行動理論で学んだ理論を用いて患者の健康行動をアセスメントすることができる	講義 GW
8	2	健康教育の実践② 1. 健康行動理論の展開がロールプレイングの中で実施できる	1. 事例に応じた健康行動理論の展開 *グループワーク、ロールプレイング	1. 糖尿病患者の事例を用いて行動変容や強化のための具体的な関わりについて考え評価できる 2. 事例展開で計画した教育内容を実際に作成し、共有することができる	講義 GW
9 10 11 12 13 14	1 2	【看護過程の展開】 1. 糖尿病をもつ勤労者の看護過程を展開し、看護計画が立案できる	1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 2. 看護計画の立案 3. 健康教育にかかわる看護介入の実践 4. 看護実践の評価 5. 看護計画の追加・修正	1. 看護過程を通して、糖尿病の人の看護について述べるができる 2. 看護介入に必要な情報収集ができる 3. 看護計画の立案ができる 4. 看護計画に基づいて健康教育を実施できる 5. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる	GW 講義
15	2	単位認定終講試験			

# 成人看護学方法論Ⅲ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 大阪労災病院院内講師	実務経験	緩和ケア病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師		
科目目標	1. がん治療の場と看護の実際を理解する 2. 緩和ケアにおける看護介入の実際を理解する 3. 緩和ケアを必要とする患者の家族の悲嘆やおかれた状況、支援の方法を理解する 4. 自己の死生観を洞察することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	がん医療の動向や政策などに関する報道に関心をもつこと 各講義終了後は復習を行い、緩和ケアや死生観について、みずからの考えを深めること	テキスト	緩和ケア がん看護学 臨床放射線医学 成人看護学総論 臨床薬理学 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	緩和ケアの歴史と現状 1. 緩和ケアの歴史とつちかわれた理念を理解する  緩和ケアの対象者の広がり 1. 緩和ケアの対象となる集団とその特徴を理解する	1. 緩和ケアの歴史 2. 緩和ケアの理念 1) 全人的苦痛（トータルペイン） 3. わが国での緩和ケアの現状 1) 緩和ケアチーム 2) 緩和ケア病棟 3) 在宅緩和ケア 4. わが国のがん対策と緩和ケア 5. 緩和ケアの展望  1. 非がん性疾患の患者の緩和ケア 1) 神経筋疾患の患者 2) 慢性・進行性の呼吸・循環器系疾患の患者 3) 維持透析の患者、とくに透析中止の患者	1. 緩和ケアの理念を実現するために看護師はどのような役割を果たすべきか述べることができる 2. 対象の特徴によって緩和ケアの内容にどのような違いがあるか述べることができる	講義
2 3 4	6	がん看護の実際 1. がんに対する薬物療法・放射線療法についてその流れと実際について理解する 2. 薬物療法・放射線療法のそれぞれについての看護のポイントを理解する	1. がんの病態と臨床経過 2. がんの治療 1) 薬物療法 2) 放射線療法 3. がん治療に対する看護 1) 薬物療法における看護 2) 放射線療法における看護 4. がん治療の場と看護 1) 外来がん看護	1. 薬物療法に関して、導入から実施、副作用への対応までの一連の流れ、抗悪性腫瘍薬の特徴、薬物療法の治療計画（レジメン）、薬物療法の限界、具体的な薬物療法の実際について説明できる 2. 放射線療法に関して、治療法の特徴、計画から実施、その後の観察までの一連の流れ、具体的な治療法の実際について説明できる 3. 薬物療法・放射線療法のそれぞれについて、アセスメントから準備教育、意思決定支援、治療中・治療後の症状の管理や合併症予防、セルフケア支援について述べることができる 4. 外来がん看護の役割を述べることができる	講義

5	2	<p>チーム医療</p> <p>1. 緩和ケアにおけるチーム医療の重要性を理解する</p> <p>2. それぞれのメンバーがどんな役割をどのように果たし、連携するのかを理解する</p> <p>緩和ケアにおける倫理的課題</p> <p>1. 緩和ケアにおける倫理的課題を検討するために、倫理・生命倫理・看護倫理の概要について理解する</p>	<p>1. チーム医療とは何か</p> <p>2. チーム医療の必要性</p> <p>3. チームの範囲と各メンバーの役割</p> <p>4. 組織横断的に活動するチーム・メンバーの役割</p> <p>1) 専門看護師・認定看護師</p> <p>2) 緩和ケアチーム</p> <p>1. 倫理・生命倫理</p> <p>1) 生命倫理の4原則</p> <p>2. 緩和ケアをめぐる倫理的課題</p> <p>1) 安楽死と尊厳死</p> <p>2) 終末期における鎮静</p>	<p>1. 緩和ケアにおけるチーム医療の中で、看護師はどのような役割を担い責任を果たしていくのかを述べることができる</p> <p>2. 地域がん診療連携拠点病院としての大阪労災病院の役割を述べるができる</p> <p>3. 緩和ケアにおける倫理的課題に対し、倫理的な視点からどのように対応したらよいか、自分の考えを述べるができる</p>	講義
6	2	<p>緩和ケアにおけるコミュニケーション</p> <p>1. 緩和ケアに必要なコミュニケーション技術について理解できる</p>	<p>1. 緩和ケアにおけるコミュニケーション</p> <p>1) わるい知らせの伝え方</p>	<p>1. 緩和ケアにおけるコミュニケーション技術を学び、悪い知らせの伝え方について、いくつかの方法を述べるができる</p>	講義
7	2	<p>意思決定支援</p> <p>1. 患者の意思決定支援における医療従事者の役割について理解できる</p>	<p>1. アドバンス・ケア・プランニング</p> <p>2. 意思決定を共有するためのコミュニケーションスキル</p> <p>1) 意思決定支援ツール</p>	<p>1. 意思決定支援における医療従事者の役割を述べるができる</p>	講義
8 9 10 11 12	10	<p>緩和ケアにおける看護介入</p> <p>1. 緩和ケアにおける看護独自のアプローチについて理解する</p> <p>身体的ケア</p> <p>1. がん患者の身体症状の特徴を理解する</p> <p>2. 主要な身体症状のマネジメントとケアを理解する</p> <p>精神的ケア</p> <p>1. 緩和ケアにおける精神的ケアが全人的苦痛の理解と関連していることを理解する</p> <p>社会的ケア</p> <p>1. 患者とその家族が経験する社会的苦痛について理解する</p> <p>2. 社会的存在としての患者・家族の闘病・療養生活を支える社会資源について理解する</p> <p>スピリチュアルケア</p> <p>1. 死が近いことを意識している人々の人生にかかわる深い苦悩(スピリチュアルペイン)について理解する</p>	<p>1. 看護介入とはなにか</p> <p>1) 緩和ケアにおける看護介入の特徴</p> <p>2. 緩和ケアに用いられる看護介入</p> <p>1) 日常生活を整える看護介入</p> <p>2) 医療の効果を高める看護介入</p> <p>3) 患者の潜在的な力を強める看護介入</p> <p>1. 主要な身体症状のマネジメントとケア</p> <p>1) がん疼痛</p> <p>2) がん関連倦怠感</p> <p>3) がん食欲不振</p> <p>4) 悪心・嘔吐</p> <p>5) 呼吸困難感</p> <p>6) 浮腫</p> <p>2. 精神的ケア</p> <p>1) 精神的ケアの理論と実践</p> <p>(1) 死にゆく患者の心理</p> <p>(2) 危機介入</p> <p>2) 主要な精神症状のマネジメントとケア</p> <p>(1) 適応障害</p> <p>(2) うつ病</p> <p>(3) せん妄</p> <p>(4) 不眠</p> <p>3. 社会的ケア</p> <p>1) 社会的苦痛</p> <p>2) 心理社会的側面を意識したアセスメント</p> <p>3) 社会的苦痛へのアプローチ</p> <p>4) 社会資源の活用</p> <p>4. スピリチュアルケア</p> <p>1) スピリチュアリティとはなにか</p> <p>2) スピリチュアルペインの把握</p> <p>(1) スピリチュアルペインの表現</p> <p>(2) スピリチュアルペインをとらえる</p> <p>3) スピリチュアルケアの実践</p> <p>(1) 基本となるケア</p> <p>(2) スピリチュアルペインの内容に対応するケア</p> <p>(3) チームによるケア</p>	<p>1. 緩和ケアにおける看護介入の特徴を述べるができる</p> <p>2. 主要な身体症状のマネジメントとケアにおける看護師の具体的な役割を述べるができる</p> <p>3. 主要な身体症状の薬物療法の概要を述べるができる</p> <p>4. がんに対する心理的反応、危機介入、コーピングの理論を活用して、がん患者の精神的ケアを述べるができる</p> <p>5. 各精神症状の診断とマネジメントについて述べるができる</p> <p>6. 社会的苦痛にはどのようなものがあるか述べるができる</p> <p>7. 社会的苦痛に対して、どのようなアプローチがあるかを述べるができる</p> <p>8. 勤労者医療を推進する労災病院の役割機能を理解し、がん患者の就労支援に必要な援助を述べるができる</p> <p>9. スピリチュアルペインの表現・内容・評価の方法を述べるができる</p> <p>10. スピリチュアルペインに対する基本的ケアを述べるができる</p> <p>11. スピリチュアルペインの内容に対応する日常的ケアを述べるができる</p>	講義

13	2	<p>家族ケア</p> <p>1. 家族成員が緩和ケアを必要とする状態や死と直面する状況での、家族の反応と対処行動について理解する</p>	<p>1. 家族の定義と家族ケアのあり方</p> <p>2. 家族アセスメントの方法と援助プロセス</p> <p>3. 家族ケアの方法</p> <p>1) 看護師の役割とチームアプローチ</p> <p>2) 終末期患者の家族への援助の方法</p> <p>4. 遺族ケア</p> <p>1) 悲嘆とは</p> <p>2) 予期悲嘆</p> <p>3) 遺族への援助</p>	<p>1. 緩和ケアを必要とする患者の家族に対する看護師の役割と看護について述べるができる</p>	講義
14	2	<p>ケアするものとしての死生観</p> <p>1. 死生観をまとめることができる</p>	<p>1. 講義を通して、自己の死生観について考えを深める</p>	<p>1. レポート提出</p>	演習
15	2	単位認定終講試験			

# 老年看護学の構成

## 目的

老年期にある対象者の特徴を理解し、保健・医療・福祉サービスシステムを活用しながら高齢者とその家族への看護が実践できる基礎的能力を養う

## 目標

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的・霊的側面の特徴を知り、生活機能の観点から対象者の健康上の課題を理解する
2. 高齢者の加齢に伴う変化を理解し、日常生活自立のために必要な技術を習得する
3. 高齢者の健康問題とそれに伴う諸問題について理解し、高齢者と家族に対する看護の方法について理解する
4. 保健医療福祉チームメンバーの一員としての看護の役割・活動について理解する
5. 高齢者の尊厳と権利について考えることができる

講義科目	単位	時間	時期	目標
老年看護学概論	1	30	Ⅱ	1. 人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 2. 高齢者の健康と保健・医療・福祉の制度および課題を学び、超高齢社会における看護の役割を理解する
老年看護学方法論Ⅰ	2	45	Ⅲ	1. 高齢者の日常生活とその援助の方法を理解する 2. 高齢者の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護の方法を学ぶ 3. 健康レベルや療養の場の違いにおける高齢者・家族への個別性に応じた援助方法を学ぶ
老年看護学方法論Ⅱ	1	30	Ⅲ	1. 高齢者に多発する疾患を抱える高齢者の看護の方法を理解する 2. 老年期における死の意味を理解し、その人らしく「生ききる」ことを支える援助方法を理解する

実習	単位	時間	時期	目標
老年看護学実習Ⅰ *介護老人保健施設 *急性期病院	2	90	Ⅳ～Ⅵ	1. 対象を理解するためのコミュニケーションを図ることができる 2. 加齢変化、既往歴や疾患が健康に与える影響を理解することができる 3. 高齢者の個別性、多様性を尊重した援助の必要性と方法を理解することができる 4. 高齢者を取り巻く環境、療養の場の特性について理

				<p>解することができる</p> <p>5. ケアチームの連携の中での看護の役割を理解することができる</p>
<p>老年看護学実習Ⅱ</p> <p>*急性期病院</p>	2	90	IV～ VI	<p>1. 障害や疾病を持ち入院している高齢者の特徴を理解し、健康のレベルに応じた看護展開ができる</p> <p>2. 高齢者の看護における継続ケアの必要性と連携を学ぶことができる</p> <p>3. 高齢者のQOLを視野に入れた看護を考える事ができる</p>

# 老年看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	老年看護領域実務病棟勤務経験有		
科目目標	1. 人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 2. 高齢者の健康と保健・医療・福祉の制度および課題を学び、超高齢社会における看護の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習	・高齢者と積極的に関わりをもちその人の背景や価値観をより深く理解していく ・超高齢化社会の動向や社会情勢について関心をもつこと	テキスト	老年看護学（医学書院）国民衛生の動向 老年看護技術（ヌーベルヒロカワ） 生活機能からみた老年看護過程 勤労者医療概論		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	老いるということ、老いを生きること 1. 高齢者のイメージを意識し、老年期の特徴を理解する	1. 「老いる」ということ 1) 未知なる老いのイメージ 2) 加齢と老化の定義と関係 3) 身体的、心理的、社会的側面の変化 2. 老いを生きること 1) 高齢者の定義 2) 発達と成熟	1. 加齢変化と老化の定義が説明できる 2. 身体面・心理面・社会面の加齢変化が説明できる 3. ライフサイクルの老年期の発達課題が説明できる	講義
3 4	4	老年看護のなりたち 1. 老年看護の目指すものを理解する	1. 老年看護とは 1) 老年看護のなりたち、定義 2. 老年看護の役割 1) 注目すべき4つの側面 2) 老年看護の特徴 3. 老年看護における理論・概念の活用 4. 老年看護に携わる者の責務	1. 老年看護の定義や関連概念とのつながりが説明できる 2. 老年看護実践の特徴について説明できる 3. 4要素の視点と看護介入について知ることができる	講義
5 6	4	超高齢社会と社会保障 1. 社会の現状と高齢者を取り巻く保健医療福祉の概要を理解する	1. 超高齢社会の統計的輪郭 1) わが国の高齢化、高齢者世帯、健康状態、死亡、暮らし 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢社会にかかわる保険医療福祉システムの構築 2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度	1. 人口動態の視点から高齢化の現状と推移について説明できる 2. 高齢者のいる世帯の状況について説明できる 3. 高齢者の保健医療福祉に関する制度の変遷について説明できる 4. 介護保険制度の目的と仕組みを説明できる	講義
7	2	高齢者のリスクマネジメント 1. 安全に配慮した環境作りの必要性、看護の役割について理解する	1. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 2. 高齢者と救命救急 3. 高齢者と災害	1. 高齢者特有のリスク要因が説明できる 2. 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際を知ることができる 3. 災害サイクルの看護援助が説明できる	講義
8	2	生活・療養の場における看護 1. 高齢者の療養する場所の特性と看護について理解する	1. 治療を必要とする高齢者の看護 1) 入院治療を受ける高齢者の看護 2) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 2. 生活・療養の場における看護 1) 保健医療福祉施設及び居住施設における看護 2) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 3) 多職種連携実践による活動	1. 各施設の特徴と、求められる看護の役割を説明できる	講義

9 10 11 12	8	<p>高齢者のヘルスアセスメント</p> <p>1. 加齢変化による日常生活への影響を理解する</p> <p>2. 高齢者の生活体験と価値観や健康への影響を理解することができる</p>	<p>1. ヘルスアセスメントの基本</p> <p>1) ヘルスアセスメントの枠組み</p> <p>2) 高齢者の総合評価</p> <p>2. 身体に加齢変化とアセスメント</p> <p>1) 皮膚とその付属器</p> <p>2) 視聴覚とその他の感覚器</p> <p>3) 循環系</p> <p>4) 呼吸器系</p> <p>5) 消化器系</p> <p>6) ホルモン分泌</p> <p>7) 泌尿生殖器</p> <p>8) 運動器系</p> <p>3. 高齢者の生活史と健康</p> <p>1) 高齢者の知恵と尊厳</p> <p>2) 価値観の多様性</p> <p>3) 多様な健康の概念</p>	<p>1. 高齢者体験より身体的・心理的・社会的変化を理解できる</p> <p>2. 加齢変化の内容を説明できる</p> <p>3. 加齢変化の日常生活への影響を説明できる</p> <p>4. 高齢者体験後、加齢変化について学習発表ができる</p> <p><b>課題1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う身体的、心理的、社会的機能の変化と健康への影響について、教科書や文献から検索してまとめる（実習事前ノート作成）</li> <li>・高齢者の生活史の特徴・背景について説明できる</li> </ul> <p><b>課題2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な高齢者にインタビューを行い、これまでの生活経験を聞いて時代背景や考え方の違いを知る</li> </ul> <p><b>課題3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューから生活経験と価値観がどのように健康に影響するかをレポートにまとめる</li> </ul> <p>レポート：テーマ「高齢者の生活経験と価値観や健康への影響」</p>	<p>講義 グループ 学習</p>
13 14	4	<p>高齢者のQOLと看護</p> <p>1. 高齢者のQOLの要素、生きがいについて理解する</p>	<p>1. 老年期の勤労者看護</p> <p>2. 高齢者のQOLとは</p> <p>1) 高齢者とヘルスプロモーション</p> <p>2) コミュニケーション</p> <p>3) セクシャリティ</p> <p>4) 社会参加</p>	<p>1. 高齢社会の勤労者の現状を理解することができる</p> <p>2. 老年期の勤労の意味を知り、看護の必要性を知る</p> <p>3. 高齢者の価値観、健康状態や生活の多様性を理解したうえで、QOLの向上への看護を考える必要性がわかる</p>	<p>講義</p>
15	2	認定終講試験単位			



# 老年看護学方法論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員	実務経験	老年看護領域実務病棟勤務経験有		
科目目標	1. 高齢者の日常生活とその援助の方法を理解する 2. 高齢者の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護の方法を学ぶ 3. 健康レベルや療養の場の違いにおける高齢者・家族への個別性に応じた援助方法を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習 (予習・復習・課題)	症候のアセスメントと看護について事前調べ学習 基礎看護技術の復習 脳梗塞について病因・症状・診断・検査・治療についての復習 個人ワーク、グループワーク、演習への主体的な取り組み	テキスト	老年看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 老年看護技術 (ヌーベルヒロカワ)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4 5	10	健康逸脱からの回復を促す看護 1. アセスメントの視点が理解できる	1. 症候のアセスメントと看護 1) 発熱 2) 痛み 3) 掻痒 4) 脱水 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 8) 褥瘡・スキン・テア 9) せん妄 10) うつ 2. 高齢者の生活機能を整える看護 1) 基本動作と環境のアセスメント 2) 転倒のアセスメント 3) 廃用症候群のアセスメントと看護	1. 加齢に伴う変化と症状の関連と看護について説明できる 2. 高齢者の発達段階や加齢現象におけるアセスメントの視点、加齢に伴う変化による生活動作の問題点が説明できる 3. 自立援助・事故予防のアセスメントのポイントが説明できる	講義
6 7 8	6	食事・食生活の援助 1. 安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助ができる	1. 高齢者における食生活の意義 2. 高齢者に特徴的な変調 3. 食生活のアセスメント 1) 食生活に関する加齢変化 2) 摂食・嚥下障害のある人の援助の方法 4. 食生活の支援 1) 食事介助、義歯ケア ……●	1. 老化に伴う機能の低下に応じた生活の自立支援の方法が理解できる 2. 高齢者の食事摂取状況におけるアセスメントの視点と必要な情報が説明できる 3. 高齢者に応じた口腔内保清の援助の方法が説明できる 4. 摂食・嚥下障害への援助の方法が説明できる	講義 演習
9 10 11	6	排泄の援助 1. 安全かつ自尊心を尊重した援助ができる	1. 高齢者の尊厳にかかわる排泄ケア 1) 排泄ケアの基本姿勢 2) 排泄障害のアセスメントと看護 3) 排尿障害のアセスメントと看護 4) 排便障害のアセスメントと看護 2. 排泄の援助 ……● 1) 自立に向けた援助の方法 2) 尿失禁、便秘に対する援助	1. 高齢者の排泄に関するアセスメントの視点と観察の方法が説明できる 2. 高齢者に多い失禁の分類と適切な援助の方法が説明できる	講義 演習
12 13 14	6	清潔の援助 1. 安全でこちよく清潔のニーズを充足できるような援助ができる	1. 高齢者の清潔ケアとは 1) 清潔の意義 2) 高齢者に生じやすい清潔に関する問題 3) 清潔のアセスメントと看護 2. 清潔の援助 ……● 1) 皮膚のアセスメント 2) 入浴・清拭・陰部洗浄・フットケア 3) 衣服の選択と整容・おしゃれとその意義	1. 高齢者の清潔に関するアセスメントの視点と方法が説明できる 2. 皮膚のアセスメントと適切な援助の方法が説明できる	講義 演習
15 16 17	6	生活リズムの援助 1. 生活リズムを整える援助ができる	1. 高齢者と生活リズム 1) 高齢者に特徴的な変調 2) 生活リズムのアセスメント整える看護 3) 高齢者の加齢に伴う生活の変化や喪失と機能低下の関連 4) 生活意欲と楽しみの必要性 2. 高齢者へのレクリエーション	1. 加齢に伴う変化による生活リズムの変化の問題点がわかる 2. 生活におけるリズム調整や楽しみのある生活の必要性が言える 3. ICFモデルを用いて高齢者の生活機能を考えることができる 4. 高齢者へのレクリエーションの企画	講義

				ができる	
18 19 20 21 22	10	看護過程の展開 1. 脳梗塞後の回復期にある患者の看護過程の展開が理解できる	1. 設定事例の高齢者の特徴を把握し、日常生活の援助技術の方法を適応する 1) 事例の把握、状態観察とアセスメント病態の理解 2) 看護の目標の設定、全体像の把握 3) 日常生活援助の必要性を検討 必要な援助項目の抽出 4) 日常生活援助の目標の設定 5) 日常生活援助計画 (食事・排泄・清潔・活動と休息など) 一日の生活リズムに合わせた自立と安全への配慮した計画 (誤嚥・転倒・身体損傷・感染など)	1. 事例を通して高齢者の特徴を、加齢変化を含める身体的・社会的・精神的視点から理解することができる 2. 高齢者の生きてきた時代背景や生活環境、習慣が健康に及ぼす影響について理解することができる 3. ICFモデルや生活行動モデルをもとに、安全・安楽・自立・個別性の視点をもって目標指向型思考での日常生活援助計画を立案することができる	講義 演習
23	2	単位認定終講試験			

表記の注意：●演習

# 老年看護学方法論Ⅱ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 大阪労災病院院内講師	実務経験	老年看護領域実務病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師		
科目目標	1. 高齢者に多発する疾患を抱える高齢者の看護の方法を理解する 2. 老年期における死の意味を理解し、その人らしく「生ききる」ことを支える援助方法を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	看護学概論で作成した「加齢に伴う身体的、心理的、社会的機能の変化と健康への影響」ノートの復習 各講義後の自己復習 個人ワーク、グループワーク、演習への主体的な取り組みを行う	テキスト	老年看護学 成人看護学（医学書院） 老年看護技術（ヌーベルヒロカワ）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	治療を行う必要とする高齢者の看護 1. 高齢者の看護の方法について理解できる	1. 検査をうける高齢者への看護 1) 高齢者が受けることの多い検査 2) 検査を受ける高齢者への援助 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 3) 老年症候群と薬物有害事象 4) 薬物療法における看護 3. 手術を受ける高齢者の看護 1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前看護マネジメント 3) 術後看護マネジメント 4) 高齢者に特徴的な手術	1. 高齢者が受けることの多い検査と手術時の看護が説明できる 2. 高齢者の栄養状態のアセスメントについて説明できる 3. 加齢に伴う薬物動態の変化について説明できる 4. 高齢者の薬物治療時の看護が説明できる	講義
4 5 6	6	運動機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 骨粗鬆症、骨折、変形性関節症の理解 2. 人工股関節置換術の術式と手術経過、予後の理解 3. 術前の看護 1) 高齢者の特徴、術前検査に伴う看護、術前アセスメント、術前オリエンテーション 4. 術後の看護 1) 術後の観察、合併症予防への援助 (1) 安楽確保の技術・・・● (疼痛緩和・巻法) (2) 体動制限の苦痛緩和・・・● (3) 創傷管理 2) 回復を促進する日常生活の援助方法 (1) 関節可動域訓練・・・● (2) 活動と休息の援助 (車椅子移動)・・・● (3) 安全管理の技術・・・● (転落・転倒・外傷予防) 3) 継続看護 (1) 多職種との連携・退院支援	1. 加齢に伴う身体的変化や生活歴と病態との関連が説明できる 2. 手術侵襲や回復過程において加齢現象が及ぼす影響が説明できる 3. 手術後のライフスタイルへの影響を学ぶことができる 4. 術後の合併症への加齢変化の影響が説明できる 5. 術後合併症予防、二次障害予防の日常生活援助が説明できる 6. 退院指導の内容が説明できる 7. 継続看護の必要性を説明できる 8. 社会資源の活用を知ることができる	講義 演習
7 8	4	認知機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 薬物療法について理解できる 2. 看護の実際に	1. 認知症とは 2. 認知症の症状 3. 認知症の病態・診断・治療・予防 4. 認知機能及び生活機能評価 5. 認知症の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション・・・● 3) 認知症高齢者の環境調整・・・●	1. 認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症の病態、診断のための検査、認知症のスケール・治療・予防について説明できる 2. 認知症の人の行動の意味を考え、対応方法が説明できる 3. 認知症をもつ高齢者と家族	講義

		ついて理解できる	4) 急性期医療における認知症高齢者の看護 5) 認知症高齢者と家族へのサポート	の生活がイメージできる 4. 日常生活の援助とその工夫、家族への支援の方法が説明できる 5. サポートシステムとその連携から看護の役割を考慮することができる	
9 10	4	脳機能障害で治療を受ける高齢者の看護  1. 看護の実際について理解できる	1. 脳機能障害の理解(病態生理、治療) 1) 脳卒中(脳梗塞・脳出血・ラクナ梗塞)と脳血管性認知症 (1) 状態観察とアセスメント・・・● (2) 意識状態の観察・・・● 2) パーキンソン病・パーキンソン症候群 (1) 状態観察とアセスメント・・・● 2. 症状に伴う看護の方法 1) 運動障害、知覚障害、神経障害に対する看護介入 3. 合併症予防、二次障害の予防 (1) 病床環境の調整・・・● (2) 転倒・転落・外傷・誤嚥など事故予防・・・● (3) 廃用症候群予防・・・● (廃用症候群予防の自動・他動運動) 4. 継続看護 1) 他職種との連携・退院支援	1. 脳卒中の病態生理が理解できる 2. 急性期治療に伴う看護の方法が理解できる 3. 安静、薬物療法と看護の役割が説明できる 4. 症状に伴う看護が説明できる 5. セルフケアの援助方法について説明できる 6. 退院指導の内容が理解できる 7. 継続看護の必要性を学ぶことができる 8. 活用できる社会資源を知る事ができる	講義
11	2	呼吸機能障害で治療を受ける高齢者の看護  1. 看護の実際について理解できる	1. 呼吸障害をきたす疾患 1) 肺炎 2) COPD 2. 呼吸機能障害の分類の症状、 3. COPDを患う高齢者の看護 1) 病態理解、状態観察とアセスメント 2) 症状・治療に伴う看護 3) 二次感染の予防と合併症予防のための看護(廃用症候群予防:呼吸機能) 4) 家族への援助	1. 呼吸機能検査のデータの意味が説明できる。(拘束性障害と閉塞性障害、血液ガス分析・酸素解離曲線など) 2. 拘束性障害と閉塞性障害を来たす疾患が説明できる 3. 高齢者の罹患時の症状や特徴が説明できる 4. アセスメントの視点が説明できる 5. 生活指導の内容と方法が説明できる	講義
12 13	4	身体疾患のある高齢者の看護  1. 看護の実際について理解できる	1. がん、糖尿病、心不全、インフルエンザ 1) 病態理解、状態観察とアセスメント 2) 症状・治療に伴う看護 3) 二次感染の予防や合併症予防のための看護 4) 家族への援助	1. 疾患、治療について理解できる 2. 加齢に伴う身体的変化や生活歴と病態との関連が説明できる 3. アセスメントの視点が説明できる 4. 症状に伴う看護が説明できる 5. セルフケアの援助方法について説明できる	講義
14	2	エンドオブライフケア  1. 看護の実際について理解できる	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生ききる」ことを支えるケア 1) 死生観 2) 死の準備状況 3. 意思決定への支援 1) 高齢者の尊厳を守るための支援 2) アドバンスケアプランニング 4. 末期段階に求められる援助 1) 高齢者の末期段階における身体変化のアセスメント 2) 末期段階の苦痛を緩和するケア 3) 家族への支援	1. 高齢者におけるエンドオブライフケア・死生観について理解できる 2. 高齢者の尊厳を守るための支援について理解できる 3. 末期段階における支援の方法が理解できる	講義
15	2	単位認定終講試験			

表記の注意：●演習

## 小児看護学の構成

### 目的

子どもの特性を理解し、あらゆる健康のレベルにある子どもとその子どもを取り巻く人々の看護を実践していくことができる基礎的能力を養う

### 目標

1. 子どもの成長発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する
2. 子どもを取り巻く環境や社会状況を理解し、子どもと家族に対する小児看護の役割について理解する
3. あらゆる健康レベルの子どもに対して、対象を一人の人として尊重し、子どもと家族を中心とした看護の方法を学ぶ
4. 子どもの日常生活及び療養生活をより良くするための援助の方法を学ぶことができる

講義科目	単位	時間	時期	目標
小児看護概論	1	30	Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の特徴と理念、看護の役割を理解する</li> <li>2. 子どもの権利条約を学び、子どもの権利や倫理について考える事が出来る</li> <li>3. 小児の成長発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する</li> <li>4. 子どもの健康に影響を及ぼす社会や家族など、子どもを取り巻く環境を理解する</li> <li>5. 子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する</li> <li>6. 小児保健統計をふまえ、小児と家族を取り巻く法律や保健対策を理解する</li> </ol>
小児看護学方法論Ⅰ	1	30	Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の健康の保持増進にむけた身体アセスメントを理解する</li> <li>2. 小児の疾病の経過を理解し、小児とその家族への看護の方法を理解する</li> <li>3. 子どもに出現しやすい症状を理解し、その看護の方法を理解する</li> <li>4. 検査や処置、手術を受ける子どもの看護の方法を理解する</li> <li>5. 小児看護におけるコミュニケーション技術や遊び、プレパレーション・ディストラクションを取り入れた看護の方法を学ぶ</li> <li>6. 小児看護技術を習得する</li> </ol>

小児看護学方法論Ⅱ	2	45	Ⅳ	健康障害のある子どもの疾患や障害の理解および看護の方法を理解する
-----------	---	----	---	----------------------------------

実習	単位	時間	時期	目標
小児看護学実習	2	30	V VI	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長発達の特徴を理解する</li> <li>2. 子どもの発達や健康状態に応じたコミュニケーションの方法を理解し、子どもの変化や反応をとらえることができる</li> <li>3. 子どもの発達や健康状態に応じた日常生活援助の方法と支援について理解する</li> <li>4. 子どもを取り巻く環境について学ぶ</li> <li>5. 疾患のある子どもとその家族を理解し、成長発達に応じた看護を実践できる</li> <li>6. 子どもに内在する可能性と能力を見出し、関わりに活かすことができる</li> <li>7. 小児看護における看護師の役割を考えることができる</li> </ol>

# 小児看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	小児科病棟勤務経験有		
科目目標	1. 小児看護の特徴と理念、看護の役割を理解する 2. 子どもの権利条約を学び、子どもの権利や倫理について考える事が出来る 3. 小児の成長発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する 4. 子どもの健康に影響を及ぼす社会や家族など、子どもを取り巻く環境を理解する 5. 子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する 6. 小児保健統計をふまえ、小児と家族を取り巻く法律や保健対策を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるときは資料作成と発表会準備が必要	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護の特徴と理念 1. 小児看護の特徴と理念について学ぶ	1. 小児看護のめざすところ 2. 小児看護の変遷	1. 子どもへのイメージを明確にし、子どもの特徴について自己の意見を述べる事が出来る	講義
2	2	子どもの権利条約 1. 子どもの権利条約について学び、小児看護における子どもの権利について考える	1. 子どもの権利条約 2. 小児看護における子どもの権利	1. 子どもの権利条約と小児看護における子どもの権利について自己の考えを述べる事が出来る	講義
3	2	子どもと家族を取り巻く社会① 1. 小児に関する諸統計と母子保健・児童福祉について学ぶ	1. 小児看護の変遷 2. 母子保健 3. 児童福祉	1. 歴史的経過の中で小児看護の変遷、母子保健・児童福祉の変遷を述べる事が出来る	講義
4 5 6 7 8	10	子どもの成長・発達 1. 各発達段階の特徴について理解する 2. 各期の子どもの成長・発達・健康・家族・看護について学ぶ	1. 成長発達の概要 2. 形態的特徴の発達 3. 身体生理の発達 4. 機能的発達 5. 日常生活における発達の特徴と看護 6. 子どもの栄養 7. 遊びの支援 8. グループ発表	1. ズグソー学習法において、自己の専門分野に対して責任をもって調べ学習をする 1. グループワークに積極的に参加し、主体的に学び、他者の学びを共有しながら理解を深める	講義 グループ発表
9	2	家族の特徴とアセスメント 1. 家族の特徴とアセスメントについて学ぶ	1. 子どもにとっての家族 2. 家族アセスメント 3. 家族の役割と機能	1. 家族アセスメントの側面をまとめる	講義
10	2	子どもと家族を取り巻く社会② 1. 学校保健・予防接種、医療費 病児教育について学ぶ	1. 小児と家族の諸統計 2. 学校保健 3. 医療費 4. 予防接種 5. 病児教育	1. 国民衛生の動向を用いて小児に関連した統計をまとめる 2. 小児に係る医療費や保健施策についてまとめる	講義

1 1	2	<p>病気・障がいを持つ子どもと家族の看護</p> <p>1. 疾病を持つ小児と家族と看護について学ぶ</p> <p>2. 環境に特徴づけられる看護について学ぶ</p> <p>3. 療養環境における遊びの目的と関わりについて学ぶ</p>	<p>1. 病気・障がいを持つ子どもと家族の看護</p> <p>1) 子どもの病気・障がいに対する子どもと家族の反応</p> <p>2) 子どもの健康問題と看護</p> <p>2. 環境に特徴づけられる看護①</p> <p>1) 入院中の子どもと家族の看護</p> <p>2) 外来における子どもと家族の看護</p> <p>3. 環境に特徴づけられる看護②</p> <p>1) 在宅療養中の子どもと家族の看護</p> <p>2) 災害時の子どもの家族と看護</p> <p>4. 療養環境での遊び</p> <p>1) 子どもにとって遊びとは</p> <p>2) 療養環境における遊びの目的</p> <p>3) 療養環境を送る小児に対する遊び</p>	<p>1. 子どもの病気に対する反応について説明できる</p> <p>2. 病気・障がいを持つ子どもの家族への看護について述べるができる</p> <p>3. 環境による看護の特徴について述べるができる</p> <p>4. 設定された小児に対して遊びの計画を立て学生間で実施する</p>	講義
1 2	2	<p>障害のある小児と家族の看護</p> <p>1. 障害のある小児と家族の看護について学ぶ</p>	<p>1. 障害のとらえ方</p> <p>2. 障害のある小児と家族の特徴</p> <p>3. 障害のある小児と家族の社会的支援</p>	<p>1. 障害のある小児へのチームアプローチについてまとめておく</p> <p>2. 家族の障がいの受容過程について説明できる</p>	講義
1 3	2	<p>子どもの虐待と看護</p> <p>1. 子どもの虐待と支援について学ぶ</p>	<p>1. 子どもの虐待の現状</p> <p>2. 虐待のタイプにおける特徴</p> <p>3. 求められるケア</p>	<p>1. LTD話し合い学習法に主体的に参加し、学びを深める</p>	講義
1 4	2	単位認定終講試験			



# 小児看護学方法論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	小児科病棟勤務経験有		
科目目標	1. 小児の健康の保持増進にむけた身体アセスメントを理解する 2. 小児の疾病の経過を理解し、小児とその家族への看護の方法を理解する 3. 子どもに出現しやすい症状を理解し、その看護の方法を理解する 4. 検査や処置、手術を受ける子どもの看護の方法を理解する 5. 小児看護におけるコミュニケーション技術や遊び、プレパレーション・ディストラクションを取り入れた看護の方法を学ぶ 6. 小児看護技術を習得する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	小児の成長発達復習 演習の手順を事前学習して臨む	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護技術（南江堂）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法	
1 2 3	6	子どもにおける疾病の経過と看護 1. 子どもの疾患と経過に応じた看護の方法について理解する	1. 慢性期にある小児と家族の看護 2. 急性期にある小児と家族の看護 3. 周手術期の小児と家族の看護 4. 終末期の小児の家族の看護	1. 知識・技術と国家試験対策問題を関連させ、確認する	講義	
4 5 6	6	子どものアセスメント 1. 子どもの身体アセスメントの方法を習得する	1. アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション 2) バイタルサイン 3) 身体測定 2. 身体的アセスメント 1) 一般状態 2) 成長・発達 3) 各器官のアセスメント	1. 知識・技術と国家試験対策問題を関連させ、確認する	講義	
7 8 9 10	8	症状を示す子どもの看護 1. 子どもの症状に対応した看護の方法を理解する	1. 一般状態 2. 痛み 3. 呼吸・循環系の症状 4. 発熱 5. 消化器症状 6. 水分・電解質異常 7. 血液 8. 神経・筋症状 9. 発疹／黄疸	1. 小児の症状別に観察のポイント、アセスメントの視点、原因、症状に対する看護、二次障害、合併症予防の看護についてまとめておくこと	講義	
11 12 13	6	検査・処置を受ける子どもの看護 1. 検査・処置を受ける子どもの看護について理解する	1. 検査・処置総論 薬物動態 2. 検査・処置論 1) 与薬 輸液管理 . . . . . ● 2) 経管栄養 . . . . . ● 3) 呼吸症状の緩和 . . . . . ● 4) 蘇生法 . . . . . ●	1. 知識・技術と国家試験対策問題に関連させ、確認する 2. 技術演習にて、子どもに対する技術の特徴、方法を知る	講義 演習	
14	2	子どもとのコミュニケーション技術 1. 全ての状況における子どもの看護で大切な事を理解する	1. 入院している子どもの権利と倫理 2. プレパレーション 3. ディストラクション 4. インフォームドアセント 5. メディカルプレイ	1. 設定された小児の状況や発達段階に対するプレパレーションを計画する	講義	
15	2	単位認定終講試験				

表記の注意：●演習

## 小児看護学方法論Ⅱ

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	45時間
教員名	専任教員 大阪労災病院臨床講師	実務経験	小児科病棟勤務経験有 大阪労災病院小児科勤務 医師 看護師		
科目目標	健康障害をもつ子どもの疾患や障害の理解および看護の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 150点 レポート 50点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	SIMは各グループで練習して臨む 看護過程について復習	テキスト	小児臨床看護各論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	新生児の疾患と看護 1. 新生児の疾患を理解する 2. 疾患をもつ新生児とその家族の看護を理解する	1. 新生児の疾患の理解 1) 新生児仮死 2) 適応障害（TTN/MAS） 3) 低出生体重児の疾患 4) 高ビリルビン血症 2. 疾患を持った小児と家族の看護 1) 各疾患のある新生児の看護 2) ディベロップメンタルケア 3) グリーフケア	1. 新生児の疾患の特徴、治療、予後について理解できる 2. 疾患をもつ新生児と家族の看護介入の方法を述べることができる	講義
3 4 5 6	8	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 1. 先天性疾患、小児神経疾患を理解する 2. 先天性疾患、小児神経疾患をもつ子どもとその家族の看護を理解する	1. 先天性疾患の理解 1) 先天性心疾患 2) 染色体異常 2. 小児神経疾患 1) 脳性まひ 2) 筋ジストロフィー 3. 子どもの障害の理解と子どもとその家族の障害の受容 1) 障害のある子どもの家族への理解 2) 障害の受容過程 3) サポートシステム・チームアプローチ 4. 脳性まひの子どもの看護 1) 機能の発達と回復促進のための援助 2) 親や家族の理解 3) 脳性まひの子どもの養育	1. 先天性疾患の病態、治療、予後について理解できる 2. 障害のある子どもとその家族の受容過程が理解できる 3. 脳性まひの子どもの生活がイメージでき、日常生活の援助とその工夫や親への育児支援の方法を述べる事が出来る 4. サポートシステムとの連携から看護の役割を考えることができる	講義
7	2	精神疾患と看護 1. 子どもの発達障害について理解する 2. 発達障害をもつ子どもの療育とその家族の支援の方法を理解する	1. 子どもの精神症状の特徴の理解 1) 問題の把握・診断・治療 2. 発達障害の特徴の理解 1) 診断基準 2) 療育方法 3. 精神障害のある子どもと家族の接し方と療育	1. 子どもの精神症状の特徴理解できる 2. 問題の把握・診断・治療・看護・療育方法について理解できる	講義
8 9 10 11	8	急性的疾患の子どもの看護 1. 小児急性疾患（感染症）の疾患を理解する 2. 感染症の子どもの看護の方法を理解する	1. 小児感染症の疾患の理解 1) 呼吸器感染症（気管支炎、肺炎） 2) 小児特有の感染症（麻疹、風疹、水痘、耳下腺炎、百日咳、ジフテリア、破傷風、髄膜炎） 2. 感染症の子どもの看護 1) 急性期～回復期のアセスメント 2) スタンダードプリコーション 3) 症状治療に伴う看護 4) 二次感染予防と合併症予防の看護 5) 家族への援助 6) 肺炎・腸炎に罹患した小児の看護	1. 小児感染症の特徴、診断基準を述べる事が出来る 2. 治療の原則（安静・薬物療法・スタンダードプリコーション）が分かる 3. 生活指導の内容と方法を述べる事が出来る	講義

12 13 14 15	8	慢性的疾患の子どもの看護 1. 小児慢性疾患を理解する 2. 慢性状態の子どもとその家族の看護の方法を理解する	1. 小児慢性疾患 1) ネフローゼ症候群 2) 腎炎 3) 川崎病 4) 糖尿病 5) 喘息 2. 慢性状態の子どもの看護 1) 病気の時間的経緯と状態のとらえ方 2) 病気による生活の変化と日常生活への援助 3) 長期的治療を必要とする子どもと家族の看護 3. ネフローゼ症候群、腎炎、川崎病、糖尿病、喘息の子どもの看護 1) 症状・治療に伴う看護 2) 安静・薬物療法・食事療法 3) セルフケアに向けての生活指導 4) 子どもの発達段階と家族背景に応じた看護の方法 5) ソーシャルサポートシステム (1) 小児慢性疾患特定事業 (2) 学校保健管理	1. 小児慢性疾患の病態生理が理解できる 2. 治療に伴う看護の方法が理解できる 3. 安静、薬物療法、食事療法のポイントと看護の役割を述べることが出来る 4. 症状に伴う看護を述べる事が出来る 5. 子ども自身のセルフケアとセルフコントロールの援助方法について理解した内容を述べる事が出来る 6. ソーシャルサポートシステムの内容を理解する	講義
16 17	4	予後不良の子どもの看護 1. 小児悪性疾患を理解する 2. 子どもが予後不良をどのように認識するのかを知り、対象とその家族の看護の方法を理解する	1. 小児悪性疾患とは 1) 小児悪性疾患の代表的な疾患 (1) 白血病、脳腫瘍の病態生理 (2) 分類、頻度 (3) 症状 (4) 検査、診断、治療、予後 2. 予後不良の子どもの看護 1) 子どもの予後不良とは 2) 子どもの生命・死のとらえ方 3) 予後不良の子どもと家族への援助 4) 死に直面した家族への看護 5) 治療をうける子どもの看護 (1) 化学療法 (2) 放射線療法	1. 予後不良の子どもと家族の心理状態が理解できる 2. 子どもの死の概念が理解できる 3. 死と離別の不安への援助の方法を述べる事が出来る 4. 化学療法における子どもの看護を述べる事が出来る 5. 放射線療法における子どもの看護を述べる事が出来る 6. 小児悪性疾患のサポートシステムについてのあり方を考えることができる	講義
18 19 20 21 22	10	看護過程の展開 1. 紙上患児を通して看護計画の立案ができる	1. 事例展開 (川崎病) (1) 情報の整理と解釈 (2) 看護問題の抽出 (3) 看護計画の立案 (4) グループでの共有 2. SIM演習 (安全・事故防止の看護)	1. 川崎病の病態と病期を理解できる 2. 病態や状況が子どもや家族の生活に与える影響を述べることができる 3. 発達段階・病期に応じた看護計画を立案することができる 4. SIM演習にて計画した看護を実践でき、評価することができる 5. SIMの内容をSOAPで記入することができる	講義 看護過程 SIM
23	2	単位認定終講試験			

# 母性看護学の構成

## 目的

女性の性を生物学的な性（セックス）と社会文化的な性（ジェンダー）の統合した性にとらえ、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護を実践するための基礎的力を養う

## 目標

1. 多様化する女性のライフサイクルを身体的・精神的・社会的側面から学び、母性看護の対象を理解する
2. 母性看護の変遷と現状を知り、母性看護の目的を理解する
3. ライフサイクル各期の女性の健康課題について理解し、各期の看護について学ぶ
4. 女性特有の疾病治療過程にある対象を理解し、健康の維持・増進・疾病の予防や回復するための看護について理解する
5. マタニティサイクル期における対象の特性を身体・心理・社会的側面から学び、その適応過程と看護を理解する
6. 女性の健康・生き方をリプロダクティブヘルスの側面から広くとらえることができる

講義科目	単位	時間	時期	目標
母性看護学概論	1	30	Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の性・生殖の意義を考え、母性の概念・特性を理解する</li> <li>2. 母子の健康を取り巻く現状を知り、母性看護の目的を理解する</li> <li>3. ライフサイクルの各期の母性としての特性を身体的・心理的・社会的側面から理解する</li> <li>4. 現代社会における母性のニーズと看護および倫理について考える</li> <li>5. 女性の一生を通じた健康の維持・増進にむけての看護の目的について理解する</li> <li>6. 女性の自己決定と結び付けたリプロダクティブヘルス・ライツの意味を理解する</li> </ol>
母性看護学方法論 Ⅰ	1	15	Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性特有の健康障害の特徴を理解する</li> <li>2. 女性特有の疾病・治療について理解する</li> <li>3. 女性の健康障害が及ぼす影響を踏まえ、女性の健康障害に対する看護について理解する</li> </ol>
母性看護学方法論 Ⅱ	1	30	Ⅳ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な妊娠の成立機序と妊娠各期の経過を理解し、健康管理に必要な看護および技術を理解する</li> <li>2. 妊娠に関する健康障害や合併症妊娠の母子管理について理解する</li> </ol>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 正常分娩の経過を理解し、産婦とその家族が主体的に出産に臨み、安全安楽な分娩のために必要な看護および技術を理解する</li> <li>4. 分娩期に起こりやすい異常について理解し、母子の看護を理解する</li> </ul>
母性看護学方法論 Ⅲ	1	30	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期における経過を理解し、セルフケアにむけて必要な看護および技術を学ぶ</li> <li>2. 産褥期における健康障害や合併症をもつ産褥の母子管理について理解し、必要な看護を学ぶ</li> <li>3. 正常な早期新生児の経過および成長発達を理解し、母子関係を促進させ、必要な看護および技術を学ぶ</li> <li>4. 産褥期・新生児期の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護について学ぶ</li> </ul>

実習	単位	時間	時期	目標
母性看護学実習	2	90	Ⅳ～ Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 人の生命の誕生に会うことにより、生命の神秘と尊厳について考えることができる</li> <li>2. 周産期における看護実践を学ぶことができる</li> <li>3. 女性特有の疾患及び治療過程を理解し、性と生殖に関する健康課題を捉えた看護実践を学ぶことができる</li> <li>4. 母性看護を必要とする対象に対して看護過程が実践できる</li> <li>5. 女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点から、リプロダクティブヘルスケアについて考えを深めることができる</li> </ul>

# 母性看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師	
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>人間の性・生殖の意義を考え、母性の概念・特性を理解する</li> <li>母子の健康を取り巻く現状を知り、母性看護の目的を理解する</li> <li>ライフサイクルの各期の母性としての特性を身体的・心理的・社会的側面から理解する</li> <li>現代社会における母性のニーズと看護および倫理について考える</li> <li>女性の一生を通じた健康の維持・増進にむけての看護の目的について理解する</li> <li>女性の自己決定と結び付けたリプロダクティブヘルス・ライツの意味を理解する</li> </ol>				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論（医学書院）国民衛生の動向 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	命について 1. 生命の神秘について考え生命の大切さを理解する	1. 命について 1) 命の大切さ 2) 命の神秘	1. 生命の神秘について考え生命の大切さについて述べることができる	講義
2 3	4	母性の基盤となる概念 1. 母子関係を理解する上で必要な概念と理論について学ぶ 2. 看護職の役割について考えることができる	1. 母性とは 1) 母性の概念 2) 母性の発達・成熟・継承 2. 母子関係と家族発達 1) 愛着と母子相互作用と母子関係形成 2) 家族機能 3) 家族の発達課題 4. セクシュアリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 6. 母性看護のあり方	1. 母性について自己の言葉で表現できる 2. 自分にとっての家族について考えることができる 3. 母性・父性の役割について述べることができる 4. セクシュアリティ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ概念を述べることができる 5. 看護職の役割について言葉で表現できる	講義
4 5	4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1. 母性看護をめぐる歴史と母子保健の現状を学ぶ 2. 母性看護の対象を取り巻く環境と現代社会を理解する	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の変遷 2) 母子保健統計からみた動向 3) 母性看護に関する組織と法律 4) 母子保健施設からみた現状 5) 母性看護の場と職種 2. 母性看護の対象を取り巻く環境 1) 家族 2) 地域社会 3) 生物学的環境 4) 社会文化的環境	1. 母性看護の変遷と母子保健の動向・現状について述べることができる 2. 母子を取り巻く環境・家族・地域・労働問題について述べることができる 3. 母性看護に関する組織と法律について述べるができる	講義
6	2	母性看護の対象とニーズについて理解する	1. 女性・家族のライフサイクル 1) 現代女性のライフサイクル 2) 家族の発達段階と家族看護 2. 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 1) 生殖器の形態・機能 2) 妊娠と胎児の性分化	1. 母性看護の対象とニーズについて述べるができる	講義
7 8 9	6	女性のライフサイクル各期における看護について学ぶ	1. ライフサイクル各期における女性の健康と看護の必要性 1) 胎児期・乳幼児期・学童期 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期・老年期の健康と看護	1. ライフサイクル各期の女性の健康と看護の必要性について述べるができる	講義
10 11	4	リプロダクティブヘルスケアについて理解する	1. 家族計画 2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶と看護 4. 喫煙女性の健康と看護 5. 性暴力を受けた女性に対する看護 6. HIVに感染した女性に対する看護	1. リプロダクティブヘルスケアについて述べるができる	講義

			7. 児童虐待 8. 国際化社会と看護		
1 2 1 3	4	母性看護に必要な技術 1. 母性看護に使われる看護技術について学ぶ	1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集・アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術 1) 女性の意思決定を支える技術 2) ヘルスプロモーションのための技術 3) 親になる過程及び家族適応を促す看護技術 4) ストレス・不快症状、苦痛を緩和する看護技術 5) 次世代の成長発達を促す看護技術 6) リプロダクティブヘルスの健康障害への適応 7) 周産期の死に対する看護技術	1. 母性看護における看護の展開の特徴を述べることができる 2. 母性看護における看護技術の特徴を述べることができる	講義
1 4	2	母性看護と倫理 1. 母性看護における倫理について考え、課題を見いだす 2. 母性をめぐる法的課題と医療事故の予防と対応について学ぶ	1. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意決定 2. 母性看護における安全・事故予防 3. 母子をめぐる現状と課題	1. 母性をめぐる倫理について関心を持ちその問題点について考えることができる 2. 母子を取り巻く現代社会について視野を向け、良い点や問題点および今後の課題について考えることができる	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

# 母性看護学方法論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	15時間
教員名	専任教員 大阪労災病院院内講師	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師 大阪労災病院勤務 認定看護師	
科目目標	1. 女性特有の健康障害の特徴を理解する 2. 女性特有の疾病・治療について理解する 3. 女性の健康障害が及ぼす影響を踏まえ、女性の健康障害に対する看護について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論 成人看護学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法	
1	2	身体的性・ジェンダーアイデンティティに関する健康障害 1. 身体的性とジェンダーアイデンティティの相違を生じる疾患や障害を学び、その看護を理解できる	1. 身体的性・ジェンダーアイデンティティに関する疾患と障害 1) 性分化疾患の病態生理と症状、病型分類・生殖性について 2) 外陰・膣の発生・発育異常の病態生理・生殖性について 3) 性同一性障害の診断と治療、看護について	1. 性分化疾患の病態と生殖性について述べるができる 2. 性器の発生・発育異常の病態生理・生殖性について述べるができる 3. 身体的性とジェンダーアイデンティティの相違をもつ対象への看護について述べるができる	講義	
2	2	思春期・更年期における健康障害 1. 思春期における月経異常の診断と治療について学び、その看護を理解できる 2. 更年期における更年期障害の診断と治療について学び、その看護を理解できる	1. 思春期 1) 月経異常、月経困難症、性感染症の症状・検査・治療と看護 2. 更年期 1) 更年期障害の症状・治療・看護	1. 思春期における月経異常について述べるができる 2. 更年期の代表的な身体的症状について述べるができる 3. 更年期障害の治療について述べるができる	講義	
3 4 5	6	内性器の健康障害 1. 内性器の健康障害の診断と治療について理解できる 2. 子宮がんで、広汎子宮全摘出術を受ける人の周手術期・後療法時及び社会復帰への看護の方法を理解する	1. 子宮（子宮がん・子宮筋腫・子宮内膜症・絨毛性疾患）・卵巣（卵巣腫瘍）の疾患 1) 病態生理と症状と病型分類・予後について 2) 診察・検査と治療・処置の理解 2. 子宮がん患者の看護 1) 手術に伴う援助 2) 術後合併症や二次感染の予防 3) 女性生殖器喪失への看護 4) 再発、予後不安に対する精神的支援 5) 社会復帰に向けての生活指導	1. 内性器の健康障害の病態生理を述べることができる 2. 子宮がんの術後合併症について述べることができる 3. 子宮がんの手術を受ける患者の看護について述べることができる 4. 社会復帰に向けての生活指導について述べることができる	講義	
6 7	4	外性器の健康障害 1. 外性器の健康障害の診断と治療について理解できる 2. 乳がんで、非定型的乳房切除術を受ける対象への看護の方法を理解する	1. 乳がん 1) 病態生理と症状、病型分類・予後について 2) 自己検診法 3) 診察・検査と治療・処置の理解 2. 壮年期における乳がん患者の看護 1) 手術に伴う看護 2) 日常生活行動の援助 3) リンパ浮腫の予防 4) 運動障害とリハビリテーション 5) 乳房喪失の悲嘆、ボディイメージの変化の受容と生活適応 6) 社会生活の適応に向けての生活指導	1. 乳がんの病態生理を述べることができる 2. 乳がんの術後合併症について述べることができる 3. 乳がんの手術を受ける患者の看護について述べることができる 4. 乳房喪失の悲嘆の変化のボディイメージの変化への受容と生活適応について述べることができる 5. 社会生活の適応に向けての生活指導について述べることができる	講義	
8	1	単位認定終講試験				



## 母性看護学方法論Ⅱ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	産科病棟勤務経験有 助産師		
科目目標	1. 正常な妊娠の成立機序と妊娠各期の経過を理解し、健康管理に必要な看護および技術を理解する 2. 妊娠に関する健康障害や合併症妊娠の母子管理について理解する 3. 正常分娩の経過を理解し、産婦とその家族が主体的に出産に臨み、安全安楽な分娩のために必要な看護および技術を理解する 4. 分娩期に起こりやすい異常について理解し、母子の看護を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） 周産期ナーシング（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	妊娠期の身体的特性 1. 母体の生理的变化を理解する 2. 胎児の発育・生理について理解する	1. 妊娠の生理 1) 妊娠とは 2) 妊娠の成立 2. 胎児の発育とその生理的变化 1) 胎児の発育と生理 2) 胎盤と羊水の生理 3. 母体の生理的变化 1) 生殖器における変化 2) 妊娠による全身的变化 3) マイナートラブル	1. 妊娠の定義を述べるができる 2. 妊娠期間を数えることができる 3. 妊娠に伴う身体的変化について述べるができる 4. 妊娠期のマイナートラブルについて述べるができる 5. 胎芽・胎児の定義について述べるができる 6. 胎児循環について述べるができる	講義
2	2	妊娠の成立に障害のある人の看護 1. 生殖機能の健康障害の診断と治療について理解する 2. 不妊症の治療をうける対象の心理・社会的背景を理解する 3. 不妊症の治療を受ける対象の看護について理解する	1. 疾患の理解 原発性不妊、続発性不妊、不育症 1) 原因と検査・治療 2) 治療方針の組み立て 3) 倫理的課題 2. 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 3. 不妊症夫婦の看護 1) 不妊検査治療中の看護の方向性 2) 一般不妊治療を受けている夫婦の看護 3) 生殖補助技術を受けている夫婦の看護 4) 不妊夫婦への社会的支援 5) 意思決定支援	1. 不妊症の定義について述べるができる 2. 不妊症の原因・検査・治療について述べるができる 3. 不妊症患者を理解するためのアセスメントを述べるができる 4. 高度生殖医療を受ける対象の心理的・社会的問題を考えることができる	講義
3	2	妊婦と家族の看護① 1. 妊婦が受ける母子保健サービスの概要を理解する	1. 妊娠とその診断 2. 妊婦健康診査 3. 保健指導 4. 保健相談	1. 妊娠期の健康診査の必要性和時期について述べるができる	講義
4 5 6	6	妊娠期の看護② 1. 各期における妊娠期の援助について理解する	1. 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 1) 妊娠の経過と診断 2) 胎児の発育と健康状態の診断 3) 妊婦と胎児の身体的健康状態のアセスメント 4) 妊婦の家族の心理・社会面のアセスメント 5) 日常生活に関するアセスメント 6) 妊娠中のマイナートラブル 7) 起こりやすい異常 2. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦の保健相談の実際 (1) 妊娠中の食生活 (2) 排泄 (3) 清潔 (4) 妊娠中の衣生活 (5) 活動と休息 (6) 妊婦の勤労 (7) 妊娠中の性生活	1. 妊娠期におけるアセスメントの方法を述べるができる 2. 妊娠各期の身体的・社会的・心理的特徴について述べるができる・妊娠期の胎児へのアタッチメントの意義を述べるができる 3. 勤労者妊婦の法的保護について説明できる 4. 妊娠期の日常生活についてのアセスメント項目を述べるができる 5. 親役割獲得過程における発達課題について述べるができる 6. 妊娠各期の必要な看護について事例をから考えることができる	講義

			<p>(8) 母子保健事業</p> <p>2) 親になるための準備教育</p> <p>(1) 分娩準備教育</p> <p>(2) 育児準備のための保健相談</p> <p>(3) 家族役割調整のための保健相談</p> <p>3. マイナートラブル(不快症状)の援助</p>	きる。	
7	2	<p>異常妊娠の病態と看護</p> <p>1. 妊娠中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療・看護を理解する</p>	<p>1. ハイリスク妊娠</p> <p>1) 糖尿病・妊娠糖尿病</p> <p>2) 妊娠貧血</p> <p>2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療と看護</p> <p>1) 妊娠悪阻</p> <p>2) 妊娠高血圧症候群</p> <p>3) 血液型不適合妊娠</p> <p>4) 多胎妊娠(双胎)</p> <p>5) 胎位異常(骨盤位)</p> <p>6) 流産・早産</p> <p>7) 妊娠中の出血</p> <p>(1) 前置胎盤</p> <p>(2) 常位胎盤早期剥離</p> <p>(3) 子宮外妊娠</p> <p>8) 胎児発育異常(IUGR)</p> <p>3. メンタルヘルスケア</p> <p>1) 妊娠期における女性の適応</p> <p>2) メンタルプロセス</p> <p>3) 環境要因</p> <p>4) 看護の役割と方法</p>	<p>1. 妊婦のハイリスク状態について述べるができる</p> <p>2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療と看護について述べるができる</p> <p>3. 妊娠中に起こりやすい異常を予防するための保健指導項目について述べるができる</p> <p>4. 妊娠期のメンタルヘルスの重要性について述べるができる</p>	講義
8	2	<p>分娩期の特徴</p> <p>1. 正常分娩の経過を理解する</p>	<p>1. 分娩の三要素</p> <p>1) 分娩とは</p> <p>2) 分娩の3要素</p> <p>3) 胎児と子宮および骨盤との関係</p> <p>4) 分娩の機序</p> <p>2. 分娩の経過</p> <p>1) 分娩の進行と産婦の身体的変化</p> <p>2) 産痛</p> <p>3) 胎児に及ぼす影響</p>	<p>1. 分娩の定義を述べるができる</p> <p>2. 分娩の三要素について述べるができる</p> <p>3. 分娩の機序に影響する因子を述べるができる</p> <p>4. 正常分娩の経過について述べるができる</p>	講義
9	2	<p>産婦の心理・社会的変化</p> <p>1. 分娩による産婦とその家族の心理的变化について理解する</p>	<p>1. 産婦の心理・社会的変化</p> <p>1) 分娩の進行に伴う心理・社会的変化</p>	<p>1. 陣痛が及ぼす影響について述べるができる</p> <p>2. 分娩各期の産婦および家族の心理について述べるができる</p>	講義
10	2	<p>産婦・胎児、家族のアセスメント</p> <p>1. 分娩経過のアセスメントを理解する</p> <p>2. 産婦の心理・社会面のアセスメントを理解する</p>	<p>1. 産婦・胎児、家族のアセスメント</p> <p>1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント</p> <p>(1) 基礎的情報の収集</p> <p>(2) 分娩経過のアセスメント</p> <p>(3) 分娩進行に伴う反応のアセスメント</p> <p>(4) 基本的ニーズに関するアセスメント</p> <p>2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント</p> <p>1) 母親役割獲得準備状態についてのアセスメント</p> <p>2) 家族関係についてのアセスメント</p>	<p>1. 日本人産婦の平均分娩所要時間を述べることができる</p> <p>2. フリードマンの頸管開大曲線について述べるができる</p>	講義
11 12	4	<p>産婦と家族の看護</p> <p>1. 産婦とその家族が主体的に出産に臨むことができるための看護を学ぶ</p> <p>2. 母児が安全安楽に分娩するための看護を学ぶ</p>	<p>1. 産婦と家族の看護</p> <p>1) 看護の目標と産婦のニーズ</p> <p>2) 安全分娩への看護</p> <p>3) 安楽な分娩への看護</p> <p>4) 出産体験が肯定的になる看護</p> <p>5) 発達を促す看護</p> <p>2. 分娩期の看護の実際</p> <p>1) 分娩第1期の活動期の看護</p> <p>2) 分娩第1期の活動期終盤の看護</p> <p>3) 分娩第2期の看護</p> <p>4) 分娩第3・4期の看護</p>	<p>1. 分娩期の看護の視点について述べるができる</p> <p>2. 産婦の観察の視点について述べるができる</p> <p>3. 産婦の苦痛の緩和の方法を述べるができる</p> <p>4. 緊急事態への準備の必要性について述べるができる</p> <p>5. 分娩各期の看護の視点を述べるができる</p>	講義
13	2	<p>異常分娩の病態・治療と看護</p> <p>1. 分娩中に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療を理解する</p> <p>2. 分娩期における正常からの逸脱の予防と</p>	<p>1. 異常分娩の病態</p> <p>1) 微弱陣痛・遷延分娩</p> <p>2) 児頭骨盤不均衡(CPD)</p> <p>3) 骨盤位</p> <p>4) 前期破水(PROM)・早期破水</p> <p>5) 前置胎盤</p> <p>6) 常位胎盤早期剥離</p> <p>7) 癒着胎盤</p>	<p>1. 分娩中に起こりやすい異常についての病態生理を述べるができる</p> <p>2. 陣痛促進による母児への影響について述べるができる</p> <p>3. 帝王切開の適応について述べるができる</p> <p>4. 前期(PROM)・早期破水時</p>	講義

		逸脱時の看護を学ぶ	8) 胎児機能不全 9) 分娩時の出血 (1) 弛緩出血 (2) 頸管裂傷 10) 陣痛促進・帝王切開の適応 2. 異常のある産婦の看護 1) 前期 (PROM)・早期破水時の看護 2) 前置胎盤の場合の看護 3) 分娩遅延リスクのアセスメントと産婦の看護 4) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 5) 分娩時異常出血のある産婦の看護 3. 地域周産期医療システム (OGCS)	の感染予防の重要性と方法について述べるができる 5. 前置胎盤の安静の重要性について述べるができる 6. 微弱陣痛状態にある産婦の看護のポイントについて述べるができる 7. 産科出血時の対処について述べるができる 8. 地域周産期医療システムの役割について述べるができる	
14	2	妊娠期・分娩期の看護技術 1. 妊娠経過の観察に必要な看護技術を習得する 2. 分娩経過を観察するための技術を習得する	1. 外診時の援助 1) レオポルド触診法・・・・・・・・● 2) 胎児心音聴取・・・・・・・・● 3) 子宮底長の測定・・・・・・・・● 4) 腹囲の測定・・・・・・・・● 2. 母乳栄養への準備 1) 乳頭マッサージ・・・・・・・・● 3. 分娩前の準備 4. 産痛緩和への援助・・・・・・・・● 5. 胎児付属物の観察と計測 1) 胎盤計測	1. 妊婦模型にてレオポルド触診法が実施できる 2. 妊婦模型にて胎児の心音を聴取できる 3. 妊婦模型にて子宮底長の測定ができる 4. 妊婦模型にて腹囲の測定ができる 5. 乳房模型にて乳頭の手入れが実施できる 6. 産痛緩和の援助を体験することができる	演習
15	2	単位認定終講試験			

# 母性看護学方法論Ⅲ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 大阪労災病院院内講師 大阪労災病院院内講師	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師 小児科病棟勤務経験有 専任教員 大阪労災病院勤務 助産師	
科目目標	1. 産褥期における経過を理解し、セルフケアにむけて必要な看護および技術を学ぶ 2. 産褥期における健康障害や合併症をもつ産褥の母子管理について理解し、必要な看護を学ぶ 3. 正常な早期新生児の経過および成長発達を理解し、母子関係を促進させ、必要な看護および技術を学ぶ 4. 産褥期・新生児期の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護について学ぶ				
評価方法	筆記試験 80点 事例展開 20点	評価基準	48点以上で合格 12点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要 事例展開について	テキスト	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） 周産期ナーシング（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	産褥期の身体的・心理・社会的変化とアセスメント 1. 産褥期の身体的経過を理解する 2. 産褥期の心理的特徴を理解する 3. 産褥期の役割変化について理解する 4. 産後の経過のアセスメントを理解する	1. 産褥期の身体的変化 1) 産褥の定義 2) 産褥の復古と悪露 3) 乳汁分泌 4) 月経の発来 5) 全身の変化 2. 褥婦の心理的变化 1) 褥婦の心理的变化 (1) 母親への適応過程 (2) マタニティブルーズ (3) 愛着・絆の形成 3. 家族の心理的变化 1) 父親の心理的变化 2) きょうだいの心理的变化 3) 祖父母の心理的变化 4. ソーシャルサポート（社会的支援） 5. 産褥経過の診断 1) 褥婦の健康状態のアセスメント	1. 産褥の定義について述べる ことができる 2. 退行性変化について述べる ことができる 3. 進行性変化について述べる ことができる 4. 母乳育児の意義について述 べることができる 5. 産褥期におけるアセスメン トの項目について述べるこ とができる 6. ルービンによる産褥期の心 理過程について述べるこ とができる 7. マタニティブルーについて 述べるこことができる	講義
3	2	新生児の生理とアセスメント 1. 新生児の生理を理解する 2. 新生児の健康状態のアセスメントを理解する	1. 新生児の生理 1) 新生児の定義 2) 新生児の分類 3) 新生児の機能 2. 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント	1. 新生児の定義を述べるこ とができる 2. 新生児期の生理的変化につ いて述べるこことができる 3. 新生児のアセスメントの項 目について述べるこ とができる 4. アプガースコアについて述 べるこことができる	講義
4 5	4	褥婦と新生児、家族の看護 1. 産婦とその家族が主 体的に産褥期間中の 諸問題を解決するた めに必要な看護を学 ぶ 2. 新生児が子宮外生活 に適應するために必 要な看護を学ぶ	1. 身体機能の回復および進行性変化への看護 1) 褥婦のセルフケアの不足に対する看護 2) セルフケア能力を高める看護 3) 母乳育児確立への看護 2. 児との関係確立への看護 3. 育児技術にかかわる看護 1) 児の栄養 2) 児の清潔 3) 児の健康管理 4. 家族関係再構築への看護 5. 新生児期の看護 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護	1. 産褥期の生理的変化への援 助について述べるこ とができる 2. 産褥期の乳房管理の必要性 と方法について述べるこ とができる 3. 子どもへの愛着形成を促す 援助について述べるこ とができる 4. 新生児の看護の原則につ いて述べるこ とができる 5. 保育環境について述べるこ とができる	講義
6	2	産褥期の看護技術	1. 復古現象を促す援助	1. 産褥モデル人形にて子宮復	演習

		<p>1. 産褥の健康を整えるための看護技術を習得する</p> <p>2. 新生児期の皮膚の清潔を保つための技術を習得する</p>	<p>1) 悪露交換</p> <p>2) 子宮復古状態の観察・・・●</p> <p>3) 産褥体操</p> <p>2. 沐浴・・・●</p>	<p>古の観察ができる</p> <p>2. 基本的沐浴法にて実施できる</p>	
7	2	<p>異常産褥の病態</p> <p>1. 産褥期に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療を理解する</p>	<p>1. 子宮復古不全</p> <p>2. 産褥期の発熱</p> <p>1) 産褥熱</p> <p>2) 創部感染</p> <p>3) 劇症型A群溶レン菌感染症</p> <p>4) 泌尿器感染症</p> <p>5) 乳腺炎</p> <p>3. 産褥血栓症</p> <p>4. 精神障害</p>	<p>1. 子宮復古不全の原因・症状について述べることができる</p> <p>2. 産褥熱の原因と種類について述べることができる</p> <p>3. 乳腺炎の病型について述べるができる</p> <p>4. 産褥うつとマタニティブルーの違いについて述べるができる</p>	講義
8	2	<p>異常産褥の看護</p> <p>1. 正常からの逸脱の予防と逸脱時の看護を学ぶ</p>	<p>1. マイナートラブル（不快症状）の援助</p> <p>1) 会陰切開部痛・腰痛</p> <p>2) 痔核・便秘</p> <p>3) 静脈瘤</p> <p>4) 浮腫</p> <p>2. 正常からの逸脱の予防と逸脱時の援助</p> <p>1) 子宮復古不全</p> <p>2) 産褥熱</p> <p>3) 創部感染症</p> <p>4) 劇症型A群溶レン菌感染症</p> <p>5) 尿路感染症</p> <p>6) 乳腺炎</p> <p>3. 産褥血栓症</p> <p>4. 産後うつ</p> <p>5. マタニティブルー</p> <p>6. 周産期の死別</p>	<p>1. マイナートラブル（不快症状）に対するケアについて述べるができる</p> <p>2. 子宮復古不全を悪化させる因子について述べるができる</p> <p>3. 子宮復古不全の看護について述べるができる</p> <p>4. 産褥熱の予防法とケアについて述べるができる</p> <p>5. 乳腺炎の予防法とケアについて述べるができる</p> <p>6. 産褥期のメンタルヘルスについて述べるができる</p>	講義
9	2	<p>帝王切開術を受けた褥婦の看護</p> <p>1. 帝王切開で出産した褥婦の看護を理解する</p>	<p>1. 身体回復への看護</p> <p>2. 術後合併症予防の看護</p> <p>1) 脊髄麻酔について</p> <p>2) 経膈分娩との違い</p> <p>3) 術後合併症（帝王切開術後血腫・出血・血栓／塞栓・創部縫合不全・イレウス・麻酔合併症・硬膜穿刺後頭痛・膀胱・腸管損傷・産褥熱</p> <p>3. 早期母子接触・母子分離への看護</p> <p>4. 母乳哺育・子育てへの看護</p>	<p>1. 帝王切開後の身体、心理、社会的側面について述べるができる</p> <p>2. 術後合併症について述べることができる</p> <p>3. 愛着形成の維持促進について述べる事ができる</p>	講義
10 11 12 13 14	10	<p>産褥期・新生児期の事例展開</p> <p>1. 正常経過をたどる褥婦・新生児の事例を通して産褥期・新生児期の看護過程が理解できる</p>	<p>1. 産褥期・新生児期の事例展開</p> <p>(1) 情報の整理と解釈</p> <p>(2) 看護問題の抽出</p> <p>(3) 看護計画の立案</p> <p>(4) グループでの共有</p> <p>2. SIM演習</p> <p>産褥3日目の子宮復古の観察の場面</p>	<p>1. 妊娠期・分娩期の経過から今後を予測したアセスメントができる</p> <p>2. 正常産褥経過を促進する看護計画が立案できる</p> <p>3. SIM演習にて計画した看護を実践でき、評価することができる</p>	講義 演習
15	2	単位認定終講試験			

# 精神看護学の構成

## 目的

あらゆるライフサイクルの段階にある対象の、こころの健康と不健康状態を一つの連続帯として理解し、健康な状態に向けての看護を展開していくことができる能力を養う

## 目標

1. 人のこころの発達とこころの健康について理解し、こころの健康の維持増進のために必要な知識を学ぶ
2. 精神保健看護における看護の機能を、保健・医療・福祉との関連において理解する
3. こころの健康・不健康状態と環境や社会の相互作用を理解する
4. 自己および他者に対する理解を深め、互いが一人の人間として尊重し合い、援助していくための知識と技術を学ぶ

講義科目	単位	時間	時期	目標
精神看護学概論	1	30	I	1. 精神保健の基礎を学び、人間は環境や社会の相互作用の中で生きていく存在であることを理解する 2. 環境や社会と精神看護の基礎的関係を学び、精神保健活動の課題を学ぶ
精神看護学方法論 I	1	30	III	1. 代表的な精神疾患について原因・病態・診断・治療を理解する 2. 行動化する患者の背景にあるものを理解し、回復を目標とした援助を学ぶ
精神看護学方法論 II	1	15	III	1. 精神看護の役割と状態や状況に応じた生活援助を理解する 2. 精神疾患患者の症状や状態像に応じた精神看護の実際について理解する
精神看護学方法論 III	1	30	IV	1. 精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する 2. 身体疾患による治療・環境に伴う精神機能への影響に対応した看護の過程を理解する

実習	単位	時間	時期	目標
精神看護学実習	2	90	IV ～ VI	1. 精神障害がある対象の健康のレベルに応じた看護過程が展開できる 2. 身体疾患や治療環境が精神機能に与える影響を理解し、看護の介入方法を学ぶことができる 3. 地域における精神保健上の問題をもつ人の社会生活状況と地域でのケアを理解することができる 4. 看護実践やその振り返りを通して、自己の感情や行動の傾向・特徴に気づくことができる

# 精神看護学概論

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 精神保健の基礎を学び人間は環境や社会の相互作用の中で生きていく存在であることを理解する 2. 環境や社会と精神看護の基礎的関係を学び、精神保健活動の課題を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	社会の動きと心の健康のつながりについて日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	精神保健の考え方 1. 精神の健康と障害について学ぶ	1. 精神保健と精神の健康とは 2. 精神障害のとらえ方	1. 精神保健の定義について述べるができる	講義
2 3	4	人間の心のはたらきとパーソナリティ 1. 人間のこころの働きについて学ぶ	1. 人間の心の諸活動 1) 意識と認知機能 2) 感情 3) 心の理論 2. 心のしくみと人格の発達 1) 人格と気質 2) ライフサイクルとアイデンティティ 3) 対象関係論 4) ボウルビーの愛着理論 5) 土居健朗の「甘え」理論	1. 人の心の諸活動について理論を用いて述べるができる 2. 人格の発達について述べるができる	講義
4 5	4	関係のなかの人間 1. 看護の対象としての家族と集団について理解し、集団力動を学ぶ	1. 全体としての家族 1) 家族の多様性と精神の健康 2) システムとしての家族 3) 家族療法の考え方と技法 2. 人間と集団 1) 集団の中の自己 2) 全体としてのグループ 3) グループとしての病棟	1. 家族の中での自己の役割を述べるができる・所属する集団の中での自己の役割を述べるができる	講義
6 7	4	ケアの人間関係 1. ケアの関係の中心が感情であることを知り、自己理解・他者理解することがケアの人間関係のもとになることを学ぶ	1. ケアの前提と原則 2. ケアの方法と関係のアセスメント 1) 関係をアセスメントする 2) プロセスレコードの活用 3) オレム-アンダーウッドの看護理論 3. 患者-看護師関係における感情体験 4. 医療の場のダイナミクス 1) 病棟のダイナミクス 2) カンファレンスでおこること	1. プロセスレコードを活用して他者と自己、その関係性を考察することができる *プロセスレコードの提出	講義
8 9	4	社会のなかの精神障害 1. 精神疾患・障害とその治療の歴史をふまえ、日本における法制度について学ぶ	1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医学・医療の流れ 3. 精神障害と文化 4. 精神障害と法制度 1) 精神科看護と法律 2) 法律・制度における課題 3) 主要な精神保健医療福祉対策	1. 精神障害の歴史と法制度の変遷について述べるができる	講義 グループワーク 発表

10	2	回復を助ける 1. 患者にとっての回復の意味を理解し、治療的環境を作り出すための看護師の役割を学ぶ	1. 回復の意味 1) 精神科におけるリハビリテーション 2) 回復を支えるさまざまなプログラム 2. 入院治療の目的と意味 3. 治療的環境をつくる	1. 回復への取り組みについて述べるができる	講義	
11	2	安全を守る 1. 患者をまもるためのリスクマネジメントについて学ぶ	1. 安全の条件 2. リスクマネジメントの考え方と方法 3. 緊急事態への対処	1. 人権と治療のバランスの上に立つ「安全」についての基本的な考えを述べるができる	講義	
12	2	地域における精神保健と精神看護 1. 地域で生活していくことを支える社会制度と看護について学ぶ	1. 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 1) 地域で生活するための原則 2) 生活を支えるための社会資源・サービス	1. 地域で生活するために必要な社会制度について述べられる	講義	
13	2	身体をケアする 1. 精神科においても身体のケアに関する高度な知識や技術が必要であることを学ぶ	1. 精神科における身体のケア 2. 身体にあらわれる心の痛み 3. 精神科の治療と身体のケア 4. 日常から気を付けておきたい身体合併症	1. 身体と精神の関係性をふまえ、身体の管理の必要性を述べるができる	講義	
14	2	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1. 感情の管理(感情ワーク)が看護師にもたらすものを知り対処する方法を学ぶ	1. 感情労働としての看護 2. 感情労働の代償と社会 3. レジリエンスを高める 4. リエゾン精神看護	1. 感情労働としての看護について、自己の考えと対処方法を述べるができる		
15	2	単位認定終講試験				



# 精神看護学方法論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床医師	実務経験		精神専門病院勤務経験有 精神専門病院勤務 医師	
科目目標	1. 代表的な精神疾患について原因・病態・診断・治療を理解する 2. 行動化する患者の背景にあるものを理解し、回復を目標とした援助を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	精神科医療・看護に関わることに ついて日頃から関心をもつこと	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4 5 6	12	精神疾患の理解 1. 代表的な精神疾患について原因・病態・診断について理解する	1. 精神医学序論 *精神医学・医療の考え方を知り、診断・治療の流れを概観する 2. 精神医療の歴史 3. 精神疾患の分類 1) 国際疾病分類（ICD-10） 4. 代表的精神疾患 1) 器質性精神障害、神経障害 2) てんかん 3) アルコール依存症・薬物依存 4) 神経症性障害・人格障害 5) 統合失調症 6) 気分障害 7) 児童青年期精神医学	1. 各精神疾患の病態・症状と診断（診断基準）・経過および治療について述べるができる	講義
7 8 9 10 11	10	精神科治療の実際 1. 実際に行われている治療の意義と副作用について理解する	1. 身体への働きかけ 1) 薬物療法 向精神薬/睡眠薬/抗パーキンソン薬 抗てんかん薬 薬物療法の留意点と副作用 2. 内面への働きかけ 1) 精神療法 2) 行動療法・認知療法 3) 作業療法・レクリエーション療法・SST 3. 社会・環境への働きかけ（地域精神医療） 1) 環境療法・治療共同体 4. 精神科リハビリテーション	1. 精神科で行われる治療の意義と副作用について述べるができる	講義
12 13 14	6	サバイバーとしての患者とそのケア 1. 患者の不安定な愛着形成が人間関係に影響を及ぼしていること知り、回復への援助を学ぶ	1. 受け入れがたい行動を示す患者たち 1) 自傷行為や多彩な身体症状を訴える患者たち 2) ケアする側に引き起こされる感情 2. 心的外傷への着目 1) 心的外傷のサバイバーとしての患者 2) 心的外傷への着目 3. 回復への道程 1) 心的外傷からの回復とケアの目標 2) 回復の3段階と患者と看護師のかかわり	1. 愛着形成と人間関係の関連について自己の考えを述べるができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

## 精神看護学方法論Ⅱ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	15時間
教員名	臨床講師	実務経験	精神専門病院勤務 看護師		
科目目標	1. 精神看護の役割と状態や状況に応じた生活援助を理解する 2. 精神疾患患者の症状や状態像に応じた精神看護の実際について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	社会の情勢と精神科医療・看護に関わることについて日頃から関心をもつこと	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	精神疾患のある患者の日常生活援助 1. 精神疾患のある患者の日常生活援助の方法について理解する	1. 通院治療と入院治療 1) 入院の意味を理解する 2. 治療環境をつくる 1) 回復の支援のための環境整備	1. 精神科における入院の意味と、必要な環境整備について述べるができる	講義
3 4 5 6 7	10	精神症状と状態像の理解とその看護 1. 精神症状と状態像とその看護について理解する	1. 精神症状と状態像の理解 2. 問題状況把握と看護 1) 感情障害がある患者とその看護 2) 幻覚・妄想状態の患者とその看護 3) 意欲障害が関係する行動症候群と看護 4) 器質性精神症候群と看護	1. 精神症状と状態像および問題状況把握とその看護について述べるができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

# 精神看護学方法論Ⅲ

開講時期	Ⅳ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	精神専門病院勤務経験有		
科目目標	1. 精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する 2. 身体疾患による治療・環境に伴う精神機能への影響に対応した看護の過程を理解する				
評価方法	筆記試験 70点 レポート 30点	評価基準	筆記試験 42点 レポート 18点 以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前学習として概論・方法論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておく グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法	
1 2	4	統合失調症で、幻覚・妄想の陽性症状のある患者の看護 1. 事例を通して、病態の理解について学ぶ	1. 病態を理解する 1) 事例の情報と発症要因とのつながりについて 2) 領域別の情報の分類について	1. 対象の成育歴や背景と疾患とのつながりについて述べる ことができる 2. 一次アセスメントに表現 することができる	講義 演習	
3 4 5	6	1. 事例を通して、症状について学ぶ 2. 対象の状態像について学ぶ	1. 問題状況の把握 1) 全体像の捉え方について	1. 全体像に病態と症状、看護上の問題が表現できる		
6 7	4	1. 対象の状態に合わせた計画について学ぶ	1. 看護計画の立案	1. 看護計画をファイルし提出する		
8 9	4	夜間せん妄で回復過程に影響を受けている患者の看護 1. せん妄についての基礎的知識について学ぶ	1. 原因疾患とせん妄の発症要因について 2. 対象の情報とせん妄の発症因子について	1. データベースに情報を分類できる 2. 看護上の問題を抽出できる 3. 看護計画を立案できる 4. 事前学習と立案した看護計画を提出する	講義 演習	
10 11	4	1. せん妄の予防の視点やケアについて学ぶ	1. せん妄の発症予防の視点やケアを組み込んだ看護計画の立案			
12 13 14	6	1. せん妄の予防・異常の早期発見・対処の視点やケアについて学ぶ	1. 発症後の対応・悪化を防止するための視点やケアを組み込んだ看護計画の立案			
15	2	単位認定終講試験				